

道徳

わたしの
私たちの

小学校五・六年

わたしの
私たちの
道徳

小学校五・六年

わたしの
私たちの

道徳

小学校五・六年

文部科学省

28

名前	学校名	
	六年組	五年組



私^{わたし}たちの道徳^{どうとく}



目次

この本の使い方 4

これが今の私 6

1 自分をみがいて

(1) 節度、節制を心がけて 10

(2) 希望と勇気をもってくじけずに 18

● 夢に向かって確かな二歩を 26

(3) 自律的で責任ある行動を 28

● うばわれた自由 34

(4) 誠実に明るいい心で 38

(5) 進んで新しいものを求めて 42

● 天からの手紙 46

(6) 短所を改め、長所をのびして 50

2 人とつながって

(1) 礼儀正しく真心をもって 56

(2) 相手の立場に立って親切に 60

● 最後のおくり物 66

● 分かり合っこと支え合っこと 70

(3) たがいに信頼し、学び合っこと 72

● 知らない間の出来事 76

(4) けんきよに、広い心をもって 80

● ブランコ乗りとピエロ 84

(5) 支え合いや助け合いに感謝して 88

● 黄熱病とのたたかい 92

3 命をいとおしんで

(1) 自他の生命を尊重して 98

● その思いを受けついで 104

● かけがえない命 108

(2) 自然の偉大さを知って 110

(3) 大いなるものを感じて 114

4 みんなとつながって

(1) 法やきまりを守って 120

● きまりは何のために 126

● 社会で生きる一人として 130

● 守らなくてはならぬこと 130

(2) 公正、公平な態度で 132

● 愛の日記 136

(3) 自分の役割を自覚して 140

● 小川笙船 146

● 集団における役割と責任

(4) 公共のために役立つことを 152

(5) 家族の幸せを求めて 156

(6) より良い校風を求めて 160

(7) 郷土や国を愛する心を 164

● 人間をつくる道——剣道—— 170

● 国家・社会の一員として 174

(8) 世界の人々とつながって 176

● ペルーは泣いている 180

● 情報社会に生きる私たち 184

● 自分を見つめ豊かに生きる 188

● 生きる喜びを感じて 190

● 真海のチャレンジ——佐藤真海—— 194

● ちがうから仲良くしよう 200

● 答えは一つじゃないよ 204

● 道徳の時間に学習したこと 206

この本の使い方

● 読み物を読んで考えましょう。



● 自分の考えを書きこんでみましょう。



学校で

- ・道徳じゆつの時間で
- ・その他の授業じゆぎょうで
- ・休み時間や放課後に



● 仲間と考えを出し合い、話し合ってみましょう。
班はんやグループで



学級がくきゅうのみんなで

家庭で

- ・家の人と一緒いっしょに



● 家の人と話し合ったり、意見を聞いたりしてみましよう。

地域で

- ・地域の人と交流して



● 地域の人と話し合ったり、意見を聞いたりしてみましよう。

いつでも、どこでも、何度でも、開いてみよう「私たちの道徳」。生きていく上で大切なことを考え、自分の生き方に生かしていこう。

6年

これが今の私

年	月	日			
夢中 <small>むちゆう</small> になつてくるといふ	一番大切なもの	自分の「いいな」と思っている所	好きな言葉	好きなスポーツ	好きな遊び
将来 <small>しやうらい</small> の夢	最近、感動したこと	自分の直 <small>す</small> したい所	得意 <small>とくい</small> なこと	好きな歌	好きな食べ物
					目標 <small>もくひょう</small> にしたい人
					最近、心に残 <small>のこ</small> った本

5年

これが今の私

わたし

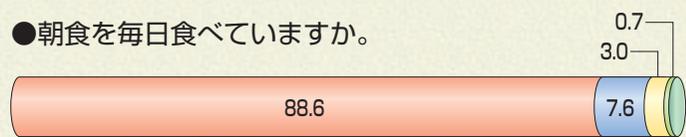
年	月	日			
夢中 <small>むちゆう</small> になつてくるといふ	一番大切なもの	自分の「いいな」と思っている所	好きな言葉	好きなスポーツ	好きな遊び
将来 <small>しやうらい</small> の夢	最近、感動したこと	自分の直 <small>す</small> したい所	得意 <small>とくい</small> なこと	好きな歌	好きな食べ物
					目標 <small>もくひょう</small> にしたい人
					最近、心に残 <small>のこ</small> った本

1 自分をみがいて

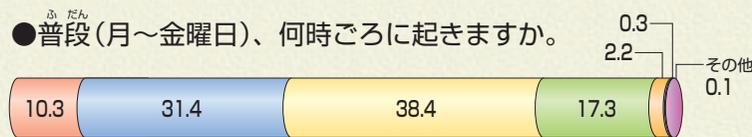
- (1) 節度、節制を心がけて
- (2) 希望と勇気をもってくじけずに
- (3) 自律的で責任ある行動を
- (4) 誠実に明るい心で
- (5) 進んで新しいものを求めて
- (6) 短所を改め、長所をのばして

■ 小学6年生に聞きました。

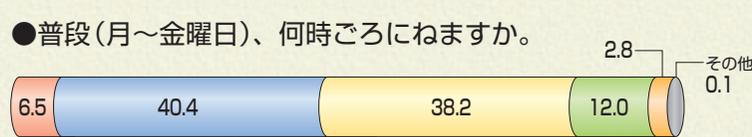
●朝食を毎日食べていますか。



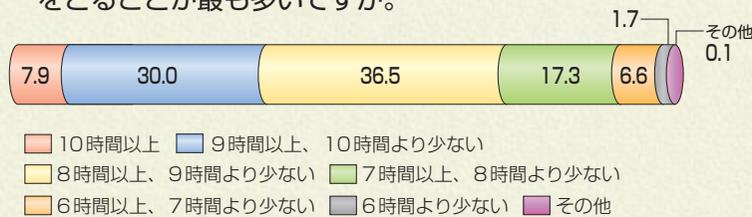
●普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか。



●普段(月～金曜日)、何時ごろにねますか。



●普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか。



文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査(小学校)」

基本的な生活習慣について考えてみよう

● データを見て思ったことや、自分の生活習慣について考えたことを書きましよう。

(1) 節度、節制を心がけて

自分の二日は、自分でしる

基本的な生活習慣をしっかりと身に付けることは、生活をしていく上で、大切なことです。

自分の生活習慣を見直し、節度をもって生活していくことで、気持ちの良い毎日を送ることができる。

気持ちの良い毎日は、あなたの心がけて実現できます。



基本的な生活習慣とは

人が、健康かつ安全に、規則正しい生活を送る上で必要な習慣のことです。それには、食事やすいみん、運動などの健康や安全のために必要なことと、時刻を守ることや整理整頓などの規則正しい生活のために必要なことがあります。

健康や安全のために

食事

バランスの良い毎日の食事は、元気に活動し、成長していくために大切なことです。



また、健康な歯で食事をするために、毎日の歯みがきも欠かせません。



運動



運動は、生活のリズムを整えるために大切なことです。毎日元気に運動すると食事も進み、夜はぐっすりとおねむることができま



●健康で安全な生活を送るための望ましい生活習慣には、他にどのようなものがありますか。

早寝 早起き



時刻を決めて早寝、早起きをする事で十分なすいみんが得られ、朝は、時間にゆとりができます。すいみんは、体を休め、健康な生活を送っていくために大切なことです。

規則正しい生活のために

時間を大切に

時刻を守り、時間を大切にすることは、規則正しい生活をしていくために大切なことです。



整理整頓

を心がけて

整理整頓を心がけ、身の回りを整えておくことは、気持ち良い生活を送るために大切なことです。



●規則正しい生活を送るための望ましい生活習慣には、他にどのようなものがありますか。

物やお金を大切に

を大切に

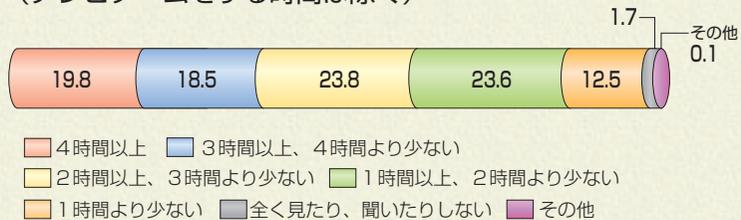


物やお金の価値を知り、大切に活用することは、無駄のない生活を送るために大切なことです。

■ 小学6年生に聞きました。

【%】

● 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームをする時間は除く)



文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査(小学校)」

節度ある生活をするためにはどうすればよいのでしょうか。

6年

5年

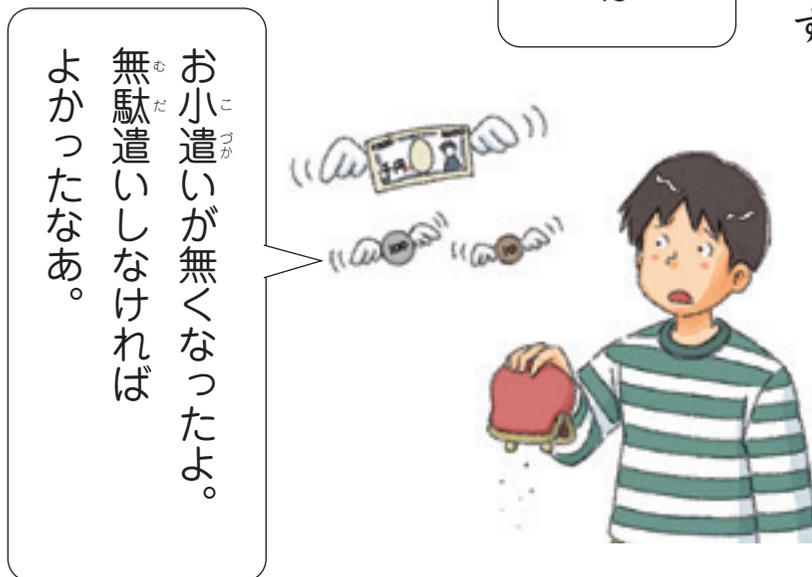
● 節度ある生活ができなかったことはありますか。そのときに、どのようなことを思ったかを書いてみましょう。

話し合ってみよう

節度ある生活をする

節度ある生活について考えてみよう

節度とは、行動などがちょうど良い程度のことです。節度の大切さは分かっているても、つい調子に乗って、度をこしてしまうことがあります。度をこさないちょうど良い程度は、実はなかなか難しいものです。



自分の生活をふり返ってみよう

● 毎日の生活習慣について、どのようなことを心がけているかを考えて書きましょう。

生活習慣		心がけていること
(例) 早寝		しっかりとすいみんをとるように、夜は十時までにはねています。



ワンガリ・マータイ
(1940～2011)

3R：リデュース（ごみを減らす）
リユース（再利用する）
リサイクル（再生利用する）

「もったいない」を世界共通の言葉に
3R + リスペクト = もったいない

ワンガリ・マータイは、国連平和大使も務めたケニア出身の環境保護活動家です。

二〇〇四年、ノーベル平和賞を受賞したマータイは、二〇〇五年に來日して、「もったいない」という言葉に出会いました。

マータイは、「もったいない」が、3Rを一言で表す言葉で、命の大切さや、かけがえのない地球の資源に対するリスペクト（尊敬の念）という意味があることを知って感動しました。そして、「もったいない」をそのまま使って、環境を守る国際語「MOTTAINAI」として世界に広げる運動に力を尽くしました。



(2) 希望と勇気をもってくじけずに

希望と勇気が

夢に近づく力になる

●今、あなたがえがいている夢を書きましよう。

あなたにはどんな目標がありますか。
あなたはどんな夢をもっていますか。

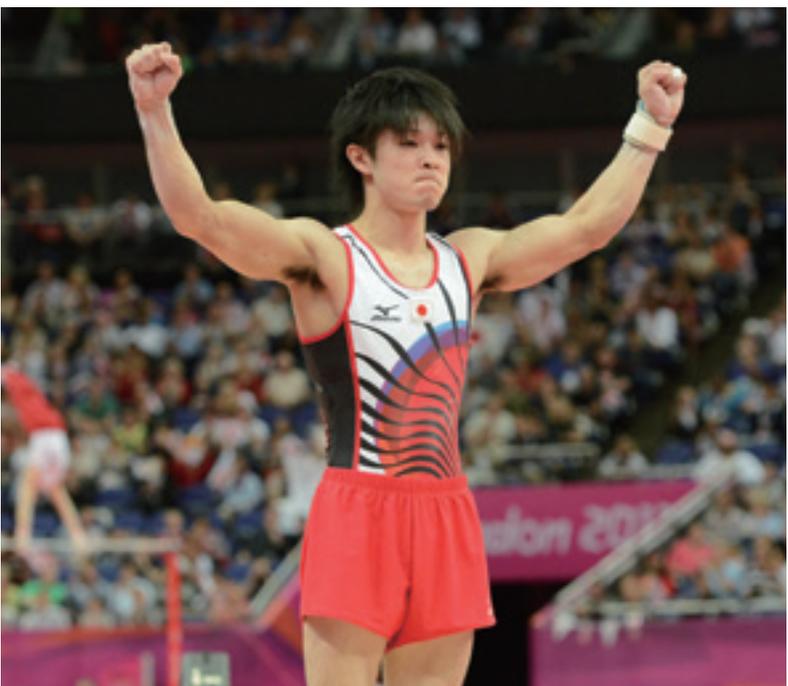
夢はくじけそうになるあなたをはげまします。
夢はあなたの心に勇気をあたえます。

大きな夢も小さな夢も

そこに届くまでにはそれぞれの道があります。
夢に向かって一歩一歩努力することが
あなたの生きる喜びを生み出します。

6年

5年



内村航平 (一九八九)

(コナミ体操競技部)

日本を代表する体操競技選手。三歳から体操を始め、十九歳の時、日本代表として北京オリンピックに出場。個人総合で二位となり、日本人として、オリンピック個人総合では二十四年ぶり、十代としては初のメダルを獲得。

二〇〇九年から三年連続して、世界選手権の個人総合で優勝。三連覇は体操競技史上初の快挙。二〇二二年のロンドンオリンピックでは日本中の期待を一身に集め、見事個人総合で金メダルを獲得した。二〇二三年にも世界選手権の個人総合で優勝し、四連覇を果たした。



自分の中の本当に追いつけないくらいの理想をもって、
それに一歩ずつでも近づけるように、自分の中で努力するという感じですよ。

内村航平

(体操競技選手)

目標に向かって努力を重ねた人たち

豊田佐吉 (一八六七〜一九三〇)



発明家。実業家。「お金も教育もない自分は、

発明で人の役に立とう。」と決心し、母に楽をさせようと、機織り機の改良を始める。外国製の機織りの仕組みを調べ、苦労を重ねて何度も試作をし、国産力機織機を独力で発明。その後、機織会社を設立し、世界初の完全な自動機織機を開発、生産して産業の発展につくした。

森光子 (一九二〇〜二〇三三)



女優。十五歳で映画デビュー。脇役を務める

期間が長かったが、四十一歳の時、小説家・林芙美子の半生をえがいた舞台「放浪記」(菊田二夫作・演出)で初めて主演を演じる。これが代表作となり、上演回数二〇七回を重ねるといふ偉業を成しとげた。八十九歳まで主演舞台上に立ち続け、生涯現役をつらぬいた。

向井千秋 (一九五二〜)



宇宙飛行士。医学博士。幼いころから「医者になりたいたい」という夢をもち、

努力を重ね、外科医となる。地球を外側から見たいと思うようになり、宇宙開発事業団(現在のJAXA)の宇宙飛行士に応募し、選ばれる。一九九四年、アメリカ航空宇宙局のスペースシャトル「コロンビア号」のミッションに参加。日本人初の女性宇宙飛行士となる。

私が学びたい人物

● あなたには、その生き方にあこがれる人がいますか。その人は、どのような夢をえがき、どのような努力をしたのでしょうか。調べてまとめてみましょう。

人物名

その人の夢

どのような努力をしたか

学んだこと

人物名

その人の夢

どのような努力をしたか

学んだこと

偉人と言われる人たちも、たくさんの挫折や苦労を希望と勇気で乗りこえてきたのです。いろいろな人の伝記を読んで、それを確かめてみましょう。

ヘレンと共に——アニー・サリバン——

アニー・サリバンは、生まれつき視力が弱く、一時は失明したこともありましたが、パーキンズ盲学院に在学中、校長先生の計らいで、三度も手術を受け、再び視力を取りもどすことができたのです。

アニーは、このとき、目が見えるということがどんなにありがたく、また、すばらしいことか、よく分かりました。そして、この喜びと感謝の気持ちは、大きくなったら、目の不自由な人たちのために役立ちたいという決意に変わっていききました。

それからのアニーは、夢中になって勉強をしました。目や耳の不自由な人に教える指話法や点字、読唇術なども一生懸命に学びました。

いつしか時が流れ、アニーは二十歳になりました。

卒業を目前にひかえた、ある日のことです。アニーは、校長室に呼ばれました。

「アニー。ヘレン・ケラーという六歳の女の子の家庭教師になってほしいという話があります。目と、耳と、口の、三つが不自由な子供ですから、教えるのにとっても苦労すると思います。しかし、あなたならできると信じています。」

アニーは、よく考えた末に、その仕事を引き受ける返事をしました。

アニーは、おだやかな日差しを受けて、ケラー家の玄関の前に、馬車から降り立ちました。

そのとき、女の子がものすごい勢いで走ってきて、アニーにぶつかりました。それがヘレンだったのです。アニーは、ヘレンをだき寄せ、

「まあ、なんてかわいい子でしょう。これから仲良くしましょうね。」と、言いました。

次の日の朝食の時のことです。ヘレンは、いきなり、お皿のものを手づかみで食べ始めました。そして今度は、アニーのお皿にまで、手をのばしてきました。お父さんもお母さんも、ただだまって見ているだけです。

アニーは、思いきって、ヘレンの手をはらいのけました。ヘレンは、みるみるうちに顔色を変えて、暴れ出しました。それでもアニーは、手にスプーンを持たせていすにすわらせようとします。一時間、二時間……。とうとうヘレンはあきらめて、アニーのひざに寄ってきました。

アニーは、ヘレンの頭をなでながら、（ヘレン、あなたがかわいいからよ、許してね）と、心の中で言いました。

ヘレンの教育は、まず、このわがまを直すことだと決心したアニーは、お父さんにたのんで、次の日から、庭にある小屋に二人だけで住むことにしました。

アニーが、ヘレンのわがまを直すために、厳しく教え始めると、



左：ヘレン・ケラーと、右：アニー・サリバン

ヘレン・ケラー
（一八八〇～一九六八）
アニー・サリバン
（一八六六～一九三六）

指話法
主に耳の不自由な人が用いる対話法の一つ。手の指の組み合わせと動きを連結させて、文字や単語を表す。

点字
目の不自由な人が読み書きに用いる文字。

読唇術
相手のくちびるの動きを見て、相手の言葉を理解（りかい）する技術（ぎじゅつ）。

「サリバン先生の教え方は、厳しすぎる。あれでは、ヘレンがかわいそう。」
という周りの人の陰口が聞こえてきました。けれども、いつか自分の考えが分かってもらえることを信じて、根気強くヘレンを導きました。

また、アニーは、指話法でヘレンに文字を教えました。手のひらに指で文字を書くと、ヘレンも同じように書きます。しかし、それが文字だとは思っていませんでした。音も光もない世界に住んでいたヘレンは、この世に言葉や文字があることさえ知らなかったからです。アニーは、何とかして、物には名前があることを教えたいと思っていました。

初夏のある日、アニーとヘレンは、手をつないで庭を散歩していました。アニーは、ふとあることを思いついて、ヘレンを井戸ばたに連れて行きました。そして、ヘレンの手をとって、ポンプの口へ持っていき、流れる水を受けさせながら、別の手に、ゆっくりと「WATER(水)」と書きました。次に、早く同じ文字を書きました。

このとき、ヘレンは、ふいに忘れていたものを思い出すように「WATER」というのは、この手の上を流れる



冷たい物のことなんだ！」と気が付いたのです。ヘレンは、アニーの手のひらに、指で「WATER」と何度も書きました。アニーは大きくうなずいて、ヘレンをしっかりとききました。

その日は、二人にとって、強い自信が生まれた記念すべき日となったのです。このことをきっかけに、次々とももの名前と文字を覚えていきました。

やがて、ヘレンは、上の学校へ進み、とうとう大学に入学しました。アニーは、ヘレンと一緒に、雨の日も、風の日も、一日も休まず教室に通いました。そして、四年間、講義の内容を、ヘレンの手のひらに、水がさらさらと流れるような速さで書き続けたのです。

ヘレン・ケラーが、多くの困難にもくじけず、世界中の身体障害者の福祉のために働き、多くの人たちから「光の天使」と呼ばれるようになったのも、アニー・サリバンの心をこめてつくした努力があったからです。

後に、ヘレン・ケラーは、大学から、名誉博士号を授与されましたが、アニー・サリバンもまた、同じ学位を授与されたのでした。

夢に向かって確かな一歩を

アメリカのメジャーリーグで活躍しているイチロー選手は、幼いころから一流のプロ野球選手になることを夢見ていました。

試合で活躍するためには、しっかりと練習しなければならぬことを自覚し、小学校三年生からは、ほぼ毎日休むことなく激しい練習をしていたそうです。

イチロー選手が、小学校六年生のころに書いた作文には、中学校や高校でも活躍して、高校を卒業したらプロ野球の球団に入りたいということや、一流の選手になったら、お世話になった人たちを試合に招待したいということなどが書かれています。

高校に進学したイチロー選手は、二年生の夏と三年生の春に甲子園で行われた全国大会に出場しました。結果は、いずれも初戦敗退でしたが、そのすばらしい才能が見いだされて、プロの球団に入りました。

プロの選手になってからも、地道な努力や工夫を積み重ね、三年目には日本プロ野球界初のシーズン二〇〇本安打を達成しました。

日本での活躍を経て、二〇〇一年に移ったアメリカのメジャーリーグでも、数々の記録をぬりかえてきました。

チームメイトの一人は、イチロー選手がすぐれているのはだれよりも継続性があること、休みの日も準備をして毎日でもプレーができるようにしていること、また、選手生活で大きなけがをしていないことだと言っています。

イチロー選手はあるインタビューの中で、子供のころのことをふり返って次のように語っています。

「キーワードは、『達成感』ですね。プロ野球という世界を『夢』として見据えながらも、まずは小さな目標をひとつずついていねいに立てていく。それを一つ一つクリアして達成感を得る。この作業を何度もくり返せば、プロ野球選手への道は開けていくにちがいない、と。そんなようなことを考えていたんだと思いますよ。」

夢をかなえることは、簡単なことではありません。けれども、夢に向かって、今、やるべきことは何なのかを考え、目標を立てて、決めたことを実行していくけば、夢に近づいていくことができます。

みなさんは、夢に向かって、確かな一歩を歩んでいますか。

自分自身の今を見つめてみましょう。

イチロー（一九七三）

（プロ野球選手）

本名、鈴木一朗。小学生のころから野球を始め、あこがれのプロ野球選手になる。メジャーリーグ（アメリカのプロ野球のトップリーグ）では、一年目に首位打者、とうるい王などにかがやき、アメリカンリーグのMVP（最優秀選手）になる。二〇一〇年には、前人未到の十年連続シーズン二〇〇本安打記録を達成した。

(3) 自律的で責任ある行動を

自由は

「自分勝手」とはちがう

自由とは、自分だけの思いや考えから自分の好き勝手にふるまえるということだろうか。

相手や周りのことを考えずに自分のやりたいことやしたいことを何でも思い通りにできることが自由ということなのだろうか。

でも……

そうだとしたら、他の人の自由とぶつかり合ってしまう wouldn't it だろうか。



自由とは、何もしないで楽をするということだろうか。

「自分で考えるのは面倒だから、だれかがやるのを待ってしよう。」
「毎日好きなことだけをして過ごそう。」
「家の手伝いをしないで、お世話をしてもらって楽をしよう。」

だれかがしてくれることにあまえて、楽をする。

それが、自由ということだろうか。

「楽ができる」

どうしてどうでもない

自由とは何だろう

●あなたが考える「自由」とは、どのようなものですか。

5年



だれにも
しぼられないこと?

とても大切な
ものだけど……。



6年

自由だからできること

自分で考えること
自分で判断すること
自分で行動すること

自由

考え、判断し、
行動することが
あなたに任されている。

自由って何だろう。
自由だから
できることって
何だろう。

好きな時間に起きて
好きな時間にねる。

好きな物を
好きなときに
食べる。

買いたい物を
買いたいただけ
買う。

したいことをして
楽しく遊ぶ。

自由って、
こういうこと
なのだろうか。

本当の自由とは何だろう

その自由は、
自分自身を駄目にしていないか。
その自由は、
他の人のめいわくになっていないか。

●自由だからこそ、気を付けなければならないことは何でしょう。

自制心のない者に自由はない

ピタゴラス
(ギリシヤの数学者、哲学者)

自由とわがままとの界は
他人のさまたげをなすと
なさざるとの間にある

福澤諭吉
(思想家、教育者)

自分を律することと責任をもつこと

自律

じりつ

自由

だからこそ



人として生き、
成長していくためには、
「人に対する責任」と
「自分自身に対する責任」をもって
行動していかなければならない。

自分の意志で考え、
的確に判断し、
それに基づいて行動する。

大切に
しなければ
ならない
ことがある

責任

話し合ってみよう

自律と責任について

高学年になって、自分で考えてできることや決められることも増えた。
だからこそ、自分を律し、責任をもって行動したい。
自由を生かす自律的で責任ある行動について考えてみよう。

実現しようと自分で決めた
ことがある

例えば……

●時間の使い方が自分で
決められるようになった



●お小遣いの使い道を自分で
決められるようになった



●どのような
取り組みがよいのだろう……



「ダッダーン！」

まだ、夜の明けぬ森の中で、一発の銃声じゆうせいが山々にこだました。

森の番人ガリューは、急いで身支度みじたくをしようと、銃声の聞こえる方に馬を走らせた。どこ
の森でも日の出前には狩りかをしてはならないというきまりがあった。そのきまりを破やぶった
者を取りしめるのが、ガリューの仕事である。

「ダッダーン！」

身近に聞こえた銃声から、場所をつかんだガリューは、全速力で馬を走らせた。

しばらく行くと、うす明かりに、馬に乗った三人の姿すがたがうかび上がった。

そして、ガリューが近づいていくと、ひときわ目立つ服装ふくそうをしている若者わかものが、

「森番。何か用か。」

と、にらみつけるようにして声をかけた。

「ここは、日暮れひぐれから日の出まで、狩りかをしてはならない所と知ってうっ
たのか。」

ガリューは、強い調子で言った。

「もちろん知っておる。」

「知っていないながら、なぜ、銃をうつのだ。」

「遊びだ。酔いよ覚ましざには、ちょうどよいのでな。」

「何を言っているのだ。きまりを破やぶっておきながら。とらえてやる。」

ガリューは、きっぱりと言った。

「私わたしをとらえることができるかな。私は、この国の王子、ジェラルルだ
ぞ。」

ガリューは、おどろいた。目立った服装の若者は、なんと、わがまま
者のジェラルル王子であった。ジェラルルは、勝手気ままにふるまい、
みなからおそれられていた。

「さあ、とらえられるものなら、とらえてみる。」

ジェラルル王子は、いばって言った。しかし、ガリューは落ち着いて、

「ジェラルル王子の名を使って、この場をにげようとしても駄目だめだ。」

と、言い切った。

「もう一度言う。私はジェラルル王子だぞ。王子をつかまえられるの
か。」

「だれであろうと、国のきまりを破やぶったからには許ゆるせません。国のきま
りは、みなが勝手なことをしないようにするためにあるのです。」

ガリューは、殺されるかもしれないと思ったが、必死ひじになってうった
えた。

「固いことを言うな。みんな、したいことをしたいようにできる自由な



暮らしを望んでおるのだ。お前みたいに、大したこともないのに大げさに、きまりだの、何だのと言っていたら、世の中、きゅうくつでたまらんではないか。なあ、みんな。」

「はい、おっしゃるとおりで……」

他の二人の男たちも、王子のご機嫌をとるように言った。

「いや、今、あなた方が言っている自由というのは、自分だけに都合の良いようにすることで、本当の自由とは申しません。わがまま勝手というものです。」

決死の覚悟でうったえるガリユールの勢いにおされて、王子は言葉につまった。

「したいことを、したいようにされては、他の者はめいわくです。周りのことを考え、ご自分の心をおさえてください。」

「ええい、生意気な。私に意見をしようと言うのか。」

「もし、本当に、あなた様がジェラルル王子ならば、なおさら、手本となるよう、勝手なふるまいをつつしんでください。」

「うるさい。王子に逆らうとは無礼なやつ。こいつをしばり上げる。」

とうとう、ガリユールは、逆に、とらえられ、ろう屋に入れられてしまった。

まもなく王様がなくなり、ジェラルル王子が王位を受けつぐと、ジェラルルのわがままはいつそうひどくなった。それを見習って、国中の人々も、勝手なことを平気でやるようになり、世の中が乱れてきた。

ジェラルル王のそばに仕える者も、ぜいたくな暮らしをし、毎日、勝手気ままにふるまっていた。中には、ジェラルル王に代わって、自分が王になろうと考え、密かにその機会をねらっ

ている者もいた。そして、ついに、ジェラルル王は裏切りにあい、とらわれの身となってしまった。

暗いどうくつに作られたろう屋で、ジェラルルがおくの方に目をやると、うす明かりの中に、一人の男が静かにすわっているのが見えた。

「ジェラルル王、あなた様も、とうとう、自由をうばわれてしまいましたな。」

と、低い声で語りかけてきた。

「そういうお前はだれだ。」

「お忘れにもられるのも当然。私は、森の番人ガリユールでございます。」

「森の番人？ガリユール？おお、あのときの……わずかしか時がたためのに、すっかりやつれてしまったのう。」

しばらくの間、二人は向き合ったままだまっていた。

「ガリユール、あのとき、お前の言葉を受け入れ、わがままな心を正すことができたなら、このように国が乱れることもなかったであろうに……」

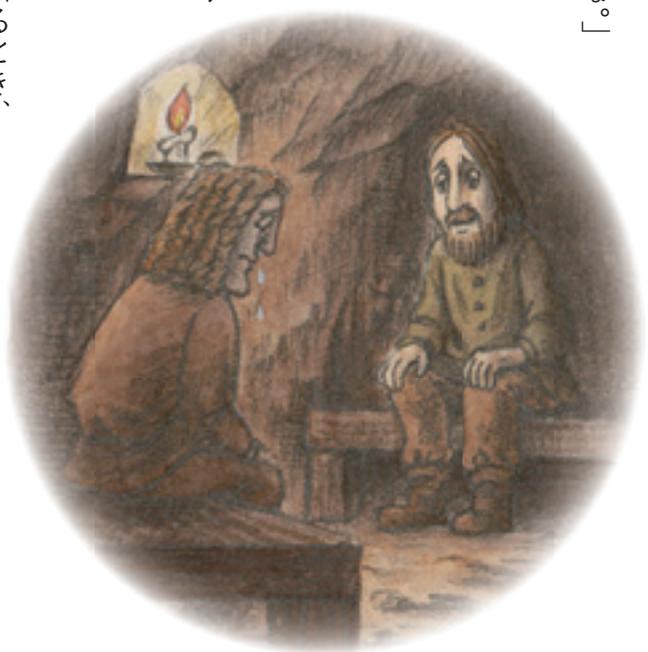
と、言って、はらはらと涙を流した。

しばらくして、ガリユールはろう屋から出されることになった。ろう屋を出るとき、

ガリユールはジェラルル王をふり返り、

「あなた様も、きっとそこから出られる日が来るでしょう。そうしたら、ご一緒に、本当の自由を大切にして、生きてまいりましょう。」

と、言って、去って行った。



(4) 誠実に明るくいふ

良心と向き合おう

こうしようと決めたとき、

「本当に、それでいいののか。」

と問いかける心の声が聞こえませんか。

自分の気持ちをごまかして行動しようとしたとき、

「それは、いつわりのない気持ちか。」

と問いかける心の声が聞こえませんか。

それが、良心の声です。

自分の良心に、真つすぐ向き合い、

誠実に行動できているでしょうか。

ふり返って考えてみましょう。



「誠実である」と「まこと」と

「誠」の意味を

調べると……

まこと【誠】

① 誠実でいつわりのない心。
素直で真面目な心。

② 本当のこと。
うそやいつわりのないこと。

「誠実」の他に、「誠」が付く言葉には、
どのような言葉があるでしょう。
その言葉には、どのような意味があるのでしょうか。

至誠にして動かざる者は
いまだこれ有らざるなり
吉田松陰
(思想家、教育者)

*真心をもって対すれば、動かすことができるものはない。

自分に誠実でないものは
決して他人に誠実であり得ない
夏目漱石
(小説家)

明るく楽しい毎日を過ごすために



あやまちや失敗は、だれにでも起こることです。そのときに、つい、その場しのぎでうそを言ったり、ごまかしたりしてしまうことがあります。

しかし、その場しのぎが、問題の本当の解決につながるのでしょうか。

このような言動は、周囲の信頼を失わせるだけでなく、自分自身に後悔を残し、やがては、自分自身を責め、とがめることになるのではないのでしょうか。

こうしたことを乗り越えるために大切なことを考えてみましょう。

話し合ってみよう

いつわりのない誠実な心をもつために

いつわりのない誠実な心をもちたい。そのためにはどのようなすればよいか、自分自身をふり返って考えてみましょう。

● どうしてうそをついたり、ごまかしたりしてしまうのかを考えて書きましょう。

自分の心の中にある
誠実で真面目な気持ちに従って
行動することは簡単なことではない。

● 誠実に行動するためにはどのようにすればよいかを考えて書きましょう。

でも、
それを乗り越えたときの気分は、
とても晴れやか。





**好奇心から
何かが生まれる**

毎日の生活の中にある「便利さ」を当たり前前だと思っている私たち。それはどのようなようにして生まれたのだろうか。

こんなことあったらいいな

●「あったらいいな」を実現するためのアイデアを考えてみましょう。

こんな便利なこと

●生活の中にある便利なことがどのようなきっかけで生まれたのかを調べてみましょう。

どのようなきっかけで生まれたのか

実現のためのアイデア

(5) 進んで新しいものを求めて

好奇心が出発点



空を飛ぶ鳥を見上げて

「自分も空を飛べないか？」と考えた人がいる。

——そこから始まったあくなき探究が
できそうもないことを可能にした。

一本の針金を手にしてながめ
ある日、ひらめいた人がいる。



——そこから広がったやわらかな発想が
今の私たちの生活に生きている。

出発点は好奇心だった。



他人から吸収することで
学んではかりいと
自分からは積極的に
物事を考えなくなる。

池田菊苗
(一八六四～一九三六)
化学者

小さな感動が、大発見につながった
ある日食べた昆布だしを使った湯豆腐のおいしさに感動した池田菊苗は、この味のもとには、昆布が関係しているのではないかと考えた。
そこで、大量の昆布だしをにつめたり、化学薬品を加えたりするなど、いろいろな方法でこの味の正体をつき止めようとした。
様々に実験を重ねた末、ついに、約三十八キログラムの昆布をにつめて、「レীগルタミン酸ナトリウム」を取り出し、これが、おいしさのもとであるということを見つけた。
それまで味覚成分としては、「甘味」「酸味」「塩味」「苦味」が知られていたが、これらとはちがう第五の味として、このおいしさのもとを「うま味」と名付けた。

新しいものを求めるようになり

古いものを残しながら型を破っていく

歌舞伎役者の十八代中村勘三郎は、江戸の世話狂言から上方狂言、時代物、新歌舞伎とどんな役でもこなすことができる名優だった。

勘三郎は歌舞伎のすばらしさを広めたいという夢の実現のために、若者が多く集まる渋谷の劇場で歌舞伎を演じたり、平成中村座を立ち上げ、欧米で自分たちの作った現代歌舞伎を演じたりした。

勘三郎の挑戦は、だれもが親しめる娯楽という本来の歌舞伎の姿を取りもどすことにつながった。



古典を守ることは大切。
それと同じくらいに
新しい挑戦が必要だ。

十八代中村勘三郎
(一九五〇～二〇一三)
歌舞伎役者



人のことをせんさく
するのをやめて、
もっとアイディアに
好奇心を向けなさい。

マリー・キュリー
(一八六七～一九三四)
ポーランド出身の物理学者

不思議な物質の正体を知りたかった

マリー・キュリーは、ピッチブレンドというウランをふくんだ鉱物から、強い放射線を出す物質に興味をいだき、一体、この物質は何だろうと、夫と共にその鉱物を何トンもくだいてはなべでにるという作業をくり返した。そうして取り出されたO・ーグラムの物質はラジウムと名付けられる。

ラジウムは当時、戦場で傷を負った兵士たちの治療に役立ち、今でもがんの治療などに使われている。

考えよう工夫しよう 求め続けよう

私たちに、知りたいことや工夫したいことがたくさんある。

生活の中で思い付いたことを、素通りしないで考えてみよう。あなたが何かを生み出すきっかけが、そこにある。



中谷宇吉郎は、雪の研究で世界的に有名な科学者である。

宇吉郎が、まだ若いころのことである。

ある朝の新聞に「アメリカの最新式除雪車が、日本の雪に動けなかった」という記事があった。それを読むうちに、日本とアメリカの雪のちがいに興味をもち、自分で調べてみたいと思った。また、あるとき、山形県で雪のため枝が折れ、一晩のうちにサクラランボの樹が全滅した話を聞いた。

「昨日の雪は、いつもより重かったんです。これで三、四年は収穫ができない。どうしたらいいのだろう。」

という農家の人のなげきに、このような雪が、どんなときに降るのが分かれば、枝折れの予防をすることもできるだろうにと考えた。

そんなある日、宇吉郎は、ベントレーという人の写真集を手にした。いく種類もの雪の結晶が三千枚ものっているものだった。

(何と美しい結晶だろう。自然の中に花がさいたようだ。)

宇吉郎は、息をのんで見入った。

このことがきっかけとなり、前から心にかけてながら延び延びになっていた雪の研究を、本格的に始めようと決心したのだった。

(日本に降る雪の性質を研究したなら、雪の害を防ぐだけでなく、これを利用することもできるかもしれない。それにはまず、雪そのものをよく見ることから始めよう。)

宇吉郎は、札幌にある大学の研究室の廊下で、窓を開け放って研究を始めた。降っている雪を、ガラス板の上に受けて顕微鏡でのぞいてみると、そこには水晶細工のような雪の結晶が見えた。宇吉郎は、写真とはちがった美しさに心を打たれるのだった。

さらに、零下十五度の十勝岳でも観測をした。雪の結晶には、六角状や六角柱などの様々な形が見られた。また、気温や水蒸気の量が変わると、雪の結晶の形もいろいろに変わってくるのが分かってきた。

このような様々な雪の結晶を調べた結果、結晶の形と天候との関係も少しずつつかめてきた。

そこで、宇吉郎は、いろいろな状態の中で雪を作ることができれば、その結晶の形から上空の気象の様子が分かるかと考えた。そして、何度も失敗をくり返しながら、上空と同じように水蒸気の温度や量を調節できる小さな実験装置を、何とか作り上げたのである。

もっと難しかったのは、実験装置の中に、雪の結晶になる核を用意することだった。雪の結晶は、空中にうかんでいるちりや氷を核にしてできる。だが、小さな装置の中を上空に近い条件にする方法は、なかなか考え出せるものではなかった。

「小さな箱の装置では、やはり無理ではないでしょうか。」
研究室の仲間が言った。



中谷宇吉郎
(一九〇〇～一九六二)

除雪車
積雪の多い地域(ちいき)で
雪かきを行う車。



しかし、宇吉郎は考え続けた。そして、装置の中に糸をつるして空にうかんでいる状態にすれば、糸を核にして雪の結晶ができるかもしれないと考えた。

最初、木綿糸をつるしてみた。だが、糸全体にしもが付き、ちょうど毛虫のような形になってしまった。羊の毛やくもの巣などもためしてみたが、どれも同じようなものだった。

そんなとき、研究室にうさぎの毛皮を着こんでいる仲間がいて、

「どの糸も駄目なら、うさぎの毛はどうかなあ。」

と、つぶやいた。何げない一言だったが、宇吉郎は聞きのがさず、願いをこめて装置にうさぎの毛を取り付けた。

「ああっ、できた。雪の結晶だ！」

宇吉郎は思わずさげんだ。一本のうさぎの毛に数か所、雪の結晶ができたのである。顕微鏡で調べたところ、うさぎの毛には、所々にこぶのあることが分かった。

「そうか、このこぶの部分が氷でおおわれ、そこに雪の結晶ができるんだ。」

宇吉郎と研究室の仲間は、代わる代わる顕微鏡をのぞき、かたをたたき合った。

その後、雪の研究は進み、大雪や重い雪の降る予想がつくようになった。そして、交通や農作物の被害の対策も立てられるようになったのである。

宇吉郎は、ある夜、真つ暗な庭に出て、懐中電灯を空に向けて見た。遠い遠い空のかなたから、数知れない白い雪が限りなくまい降りてくる。耳をすますと、空でサラサラという音を立てているような気がした。この雪の一つぶの結晶が、上空の気象状態を教えてくれるはずである。

(雪の結晶は、天から送られた手紙のようだ)と、宇吉郎は思うのだった。



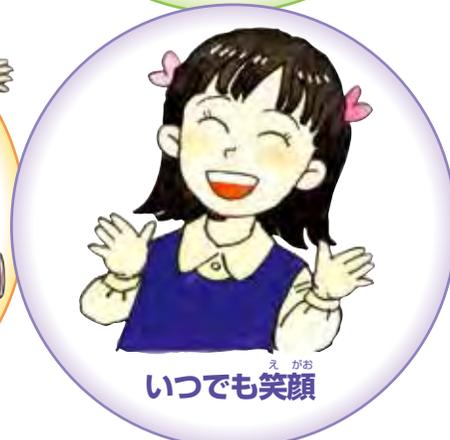
友達がいっぱい



ねばり強い



だれにでも親切



いつでも笑顔

自分の良い所を見付けよう

●自分の良い所を見付けてみましょう。周りの人にも聞いてみましょう。

私が見つけた自分の良い所

(さんから

(さんから

(さんから

(6) 短所を改め、長所をのばして

自分らしさつて

何だろう

自分の中にある

あんな良い所、

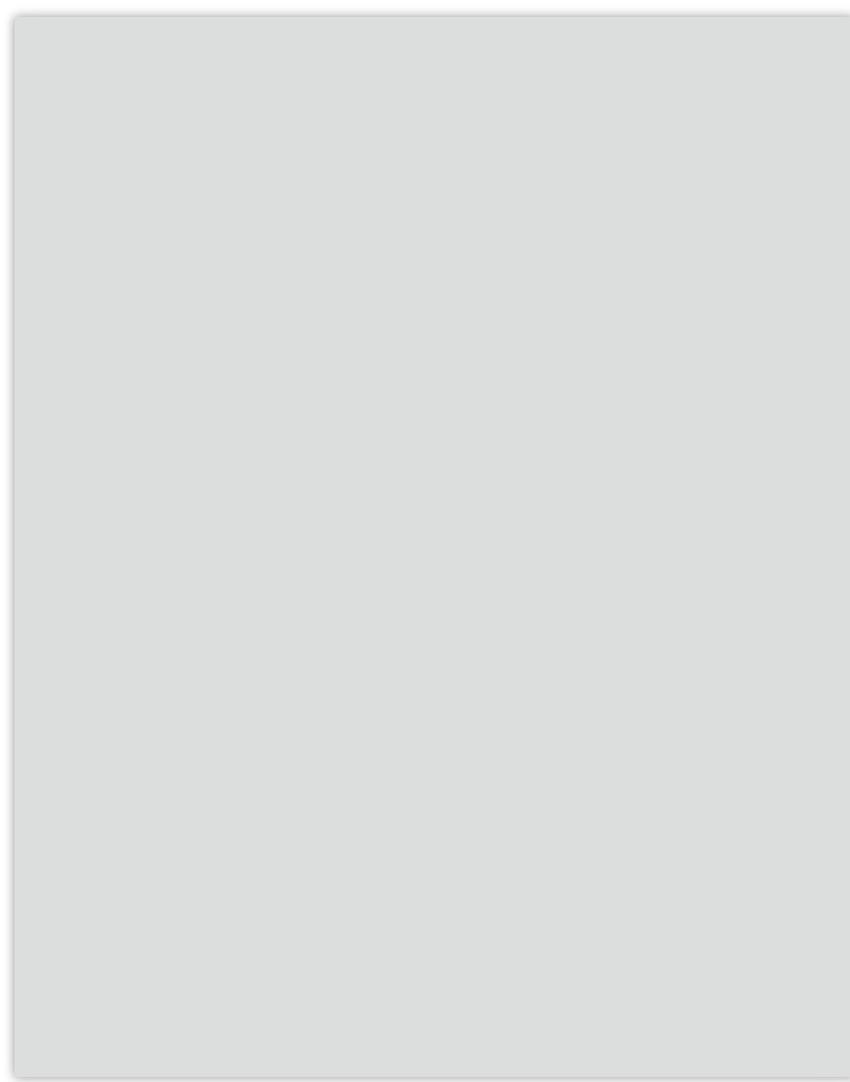
こんな良い所。

それを見付け、

のばしていくことで、

自分らしさが

もっともっとみがかれていく。





こんな自分を変えたいな



自分らしさを発揮して

自分の「良い所」も「変えたい所」も、自分が成長していくために大切な所。あなたの力で、あなたはもっと自分らしさを発揮して変わっていきけるはず。周りの人や友達の見も聞いてみましょう。

●自分の「良い所」や「変えたい所」を考え、自分らしさをもっとかがやくためにはどうすればよいかを書きましよう。

私の良い所

もっとかがやくために

私の変えたい所

もっとかがやくために

玉みがかざれば光なし

『礼記』による

他人が自分よりすぐれていたとしても、それは、はじめではない。しかし、去年の自分より今年の自分がすぐれていないのは、立派なはじめなのである。

ラポック
(イギリスの探検家)

2 人とつながって

- (1) 礼儀正しく真心をもって
- (2) 相手の立場に立って親切に
- (3) たがいに信頼し、学び合って
- (4) けんきょに、広い心をもって
- (5) 支え合いや助け合いに感謝して

茶道 (さどう)



伝統的な礼儀作法は、心を形で表すことの大切さを示している。

柔道 (じゅうどう)



試合前の礼、試合後の礼。礼に始まって、礼に終わる。

礼儀とは真心の表れ

「ありがとう」「もおはよう」も、そして「ごめんなさい」「も、あいさつも、お辞儀も、心を伝える形です。言葉で表さなければ相手に伝わらない。



●相手に心を伝える形には他にどのようなものがありますか。

心を伝える「形」がある

(1) 礼儀正しく真心をもって

心と心をつなぐ

あいさつ

毎日顔を合わせる人や友達とだって、一日には出会いと別れがある。朝の出会い、新しい一日の始まり。帰りの別れは、その日の一つの区切り。一日は、元気なあいさつで始め、気持ちの良いあいさつで終わりたい。



江戸しぐさで暮らそう

三百年もの長い間、平和が続いた江戸時代に色々な生活習慣が生み出され、これを「江戸しぐさ」と呼び、今に生きる知恵として役立てる動きがあります。江戸しぐさには、人々がたがいに気持ち良く暮らしていくための知恵がこめられています。

かた引き

せまい道で人とすれちがうときのしぐさです。おたがいに右のかたを後ろに引いて、相手にぶつからないようにします。



かさかしげ

かさをさした人同士が、すれちがうときのしぐさです。相手をぬらさないように、たがいのかさをかたむけます。



こぶしうかせ

複数の方が一緒にすわるときのしぐさです。一人でも多くの人がすわれるように、みんなが少しずつこしを上げて、場所を作ります。



おつとめしぐさ

人が見ているから良いことをするのではなく、だれも見えていなくても、だれかのためになることをする心構えのことです。



他にもこんなしぐさがあります。

<p>差し延べしぐさ</p>	<p>だれかが困っていたら、それがたとえ知らない人であっても声をかけ、手を差し延べます。</p>
<p>念入れしぐさ</p>	<p>火の消し忘れや、忘れ物などがないかしっかり確認するという心づもりです。</p>
<p>用心しぐさ</p>	<p>子供は、人ごみの中では大人のそばをはなれないようにします。</p>

「江戸しぐさ」は

どうして生まれたのでしょうか

江戸時代、江戸の町には、全国から文化や習慣のちがう人たちが集まってきました。そのため、様々な人たちがおたがいに仲良く平和に暮らしていけるようにと、大きな店の商人たちは、当時、「商人しぐさ」と呼ばれていたものを広めていこうとしました。「商人しぐさ」は、例えば「お天道様に申し訳ないことはしない」とか「おかげさま」などの考えを元にした商いの心得を態度に表したものです。この「商人しぐさ」が元になり、江戸の町に広がっていった生活習慣を「江戸しぐさ」と呼ぶようになったと言われています。このように、江戸の人々は、お天道様にはずかしくないように行動することや、人のおかげで物事が成り立っていると考えることなどを通して、真心をもって人間関係を大切にしようとしていたことが分かります。



人間は、助け合わなければ生きていけない。
だれにでも困るときがある。あなたもだれかに助けてもらいたいと思ったことがあるだろう。
同じように相手が困っているときも、だれかに助けてもらいたいと思っているかもしれない。
だから、たがいが思いやりの心をもつことは、とても大事なことです。
相手の気持ちと自分の気持ちを重ねてみよう。

●親切にしたい……けれどもなかなか行動できないことはありませんか。どうしてなのかを考えてみましょう。

(2) 相手の立場に立って親切に

思いやりの心があるから 共に生きられる

困っている人を見ると心配になる。
何とかしたくなる。

それが「思いやり」の入り口。



だれにでもある心の温かさ。
どうすればあの人のためになるのかと
考えてみる。
それが、あなたの思いやり。
あなたらしい思いやりの心を育てよう。



相手の思いに 寄りそってみる

行為の意味

宮澤章二

——あなたの〈こころ〉はどんな形ですか
とひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも〈こころ〉は見えない
けれどほんとうに見えないのであろうか

確かに〈こころ〉はだれにも見えない
けれど〈こころづかい〉は見えるのだ
それは人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の〈思い〉は見えない
けれど〈思いやり〉はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
〈心〉も〈思い〉も 初めて美しく生きる
——それは 人が人として生きることだ

相手のこころをきいて
気持ちを表す

どつすれば
相手のためになるか
考える



「思い」は見えないけれど、いろいろな形で伝えられる

表情
で

行動
で

言葉
で

態度
で



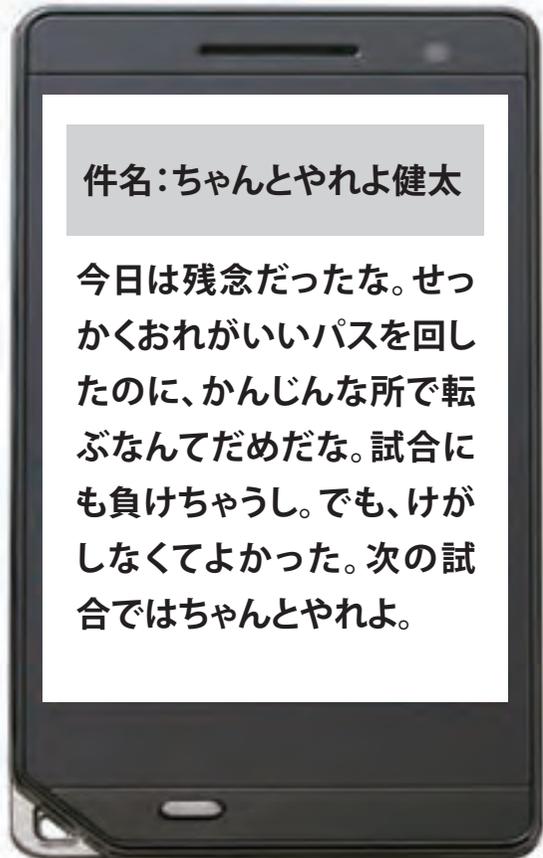
●あなたは、「思いやり」をどのように伝えたいですか。

例えばだれかが一人できびしそうにしているとき

例えばだれかが失敗して落ちこんでいるとき

相手に思いを

伝えたはずなのに……



どうして本当の思いが伝わらなかったのか、どのようなことに気を付けなければならぬのかを話し合ってみましょう。

ぼくと健太はサッカー仲間だ。いつも「ボールいくぞ。」「おおっ。」「ためだなあ。」「っかりやれよ。」「何言ってるんだ。ちゃんと球を送れよ。」「などと言いながらサッカーを楽しむ。ひどい言い方だと周りから言われるけれど、心が通じ合っているから平気だと思っていた。

ところが、ある日の試合で、ぼくのパスを健太が取りそこねて転んでしまった。おかげでチームが負けてしまった。ぼくは、落ちこんでいる健太をばげますと、すぐにメールを送った。しかし、返事も来ないし、次の日からの健太の態度がどうもおかしい。ぼくをさけるようにしているのだ。ぼくは真司にメールを見せて相談した。すると真司は、「こんなメールが来たら、だれだって落ちこむよ。」と言った。いつもの言葉なのにどうしてだろう。ぼくは、メールを見てもう一度考え始めた。

思いやりをふり返ろう

「私からの思いやり」の記録

だれに

どのようないい

こんな気持ちで

だれに

どのようないい

こんな気持ちで

●あなたが伝えた思いやり、あなたが受け止めた思いやり。それぞれをふり返ってみましょう。

「私が受け取った思いやり」の記録

だから

どのようないい

こんな気持ちでした

だから

どのようないい

こんな気持ちでした

ロベーターの夢は、有名な劇団「アルベル」の俳優になることだった。地方から一人でこの町に出てきたロベーターには、養成所に通う余裕はなく、自分なりの練習を重ねていた。ある日の夜、養成所がどのような練習をしているのかを知ろうと、窓ごしに中をのぞいてみた。あまりの練習の厳しさと熱心さにおどろき、ロベーターは、思わず立ちすくんでしまった。

それから、たびたび夜に窓の下で熱心にメモを取るロベーターの姿が見られた。たまりかねて声をかけたのが、守衛のジョルジュじいさんだった。ジョルジュじいさんは、ロベーターの話聞き、「本当なら許されないが、他の守衛仲間にも私から話しておくよ。」

と、言ってくれた。その日から、雨の日も風の日も、窓ごしに練習の様子を熱心に見入るロベーターの姿があった。

三か月ほどたった日の朝、ロベーターは、アパートのドアの下に小さな紙の包みを見つけた。中には、養成所の月謝代に使ってください、という手紙と共に、何枚かのお札が入っていた。自分にこんなことをしてくれる人を、ロベーターは思いつかなかった。翌月も、その次の月もおくり物は届いた。

「お金をそのまま受け取ってよいものでしょうか。だれが送ってくれるのか探したんですが分からないんです。」

思いあまつて、ロベーターはジョルジュじいさんに相談してみた。

「きっとあなたに期待をかけている人なんだろうね。このお金は今借りていると思えばいいじゃないか。無駄にしないように頑張ることだね。」

そう言った後で、

「あっ、そうそう私は今度、昼間の勤めに変わることになったのでね。しばらく会えなくなるけど、くじけちゃ駄目だよ。」

と言って、やさしくほほえみかけた。

養成所に通い始めたロベーターは、一生懸命に練習に取り組んだ。日に日に実力を身に付け、先生や仲間からも次第に認められるようになってきた。ロベーターは、いつそう練習に力が入った。

ところが、しばらくして突然おくり物が届かなくなった。次の月も、その次の月も、やはりおくり物は届かなかった。はらえない月謝がたまり始めた。

「せっかくここまでできたのに……。」

ロベーターは、思わずくちびるをかむのであった。

そんなある日の夜ふけに、とびらの外にかすかに人の気配がした。そつと玄関の方をのぞくと、雪明かりの中にかがみこんで何かを置いている人影が見えた。

「ジョルジュじいさん……。」

ゆっくりと起き上がったその顔が見えたとき、ロベーターは息を飲んだまま、その場を動くことができなかった。ジョルジュじいさんは、立ち去ろうとしたが、その様子がおかしい。と思

う間もなく、雪の中にたおれこんだのである。

ロベールは外へ飛び出した。かけ寄ってみるとジョルジュじいさんは苦しそうに息をしていた。ひどい熱。ロベールは、だきかかえて自分の部屋に連れて行き、ベッドにねかせると、急いで近くの病院に向かった。玄関のわきには、見慣れた紙の包みがあった。

「難しい状態です。大分衰弱してますから。とにかく、だれか付きそいが必要です。」
医師がそう言ったとき、来ていた仲間の守衛たちが顔をくもらせた。

「体をこわして休んでいたのに、また無理して働き始めたからだろうね……。困ったなあ、このじいさんには身寄りがいないんだ。」

と、だれかが言った。
付きそいとなれば、仕事を休まなければならない。ロベールは、しばらくうつむいていた。が、きっぱりと言った。

「ぼくが付きそいます。息子なんです。」

それから、付きつきりで、ねむり続けるジョルジュじいさんの看病をした。しかし、体は日に日に弱っていった。

三日目の夜、ジョルジュじいさんは、かすかにほほえみながら、ロベールに小さな声で語りかけた。

「めいわくをかけることになって悪かったね。」

「そんな……。」

「息子だと言ってくれたんだね。」

「そんなことより、ぼくのためにこんなに苦しむことに……。」

「ちっとも苦しくはなかったよ……。幸せを感じたくらいだ。」

どこまでも気づかってくれるジョルジュじいさんの言葉に、ロベールはかたをふるわせた。

「ぼく、おじいさんにあやまらなければ……。お金が届かなくなったとき、ぼくはうらみしました。本当におろかでした。どんなに苦しんでいたかも知らないで。許してください……。でも、どうして見ず知らずのぼくなんかに。」

「私も俳優になりたかった……。君の姿を見て……。ありがとう、頑張るんだよ……。」

ジョルジュじいさんは、そう言うと、ロベールの手をとったまま、またねむりについた。それからしばらくして静かに息を引き取った。

その夜、ロベールはジョルジュじいさんからの最後の手紙を取り出し、もう一度読み始めた。

おくれていたお金を入れておきます。もうすぐ、劇団の新人募集の試験がありますね。私は心よりあなたの努力が実ることを願っています。あなたの初舞台を一日も早くみられることを心待ちにしています。

手紙の文字がなみだでかすんだ。その中に、ジョルジュじいさんの語りかけるようなやさしい笑顔がうかんできた。

ロベールは、何かを決意したかのように、遠くに視線を移すのだった。



あべりあに

あなただにあべり
あえてほんじつに
よかつた

ひとにまじり
あから
そいつてくる
ひとがたまれば
みつを



(3) たがいに信頼し、学び合っ

学び合い、高め合える友情を

友達は、遊ぶ仲間だと思っていたけれど
 落ちこむ私を君がはげましてくれたとき
 胸がぐっと熱くなった。
 そうなんだ、これが友達なんだって
 あのとき初めて気が付いた。
 はなれていたって
 きっと私のことを考えてくれている。
 そう思うからこそ
 たがいにはげまし合って生きていける。



だけど……こうきばかりじゃなくね

●あなたにとって友達とは。

友情は成長のおそい植物である。
 それが友情という名の花をさかす前に、
 幾度かの困難な打撃に
 たえなければならぬ。

ジョージ・ワシントン
 (初代アメリカ合衆国大統領)

友人に不信をいだくことは、
 友人にあざむかれることよりも
 もっと恥ずべきことだ。

ラ・ロシュフコー
 (フランスの文学者)

6年

5年

あゆみの回想

(九月一日)

いよいよ、新しい学校での生活が始まった。父の転勤とはいえ転校は不安だったが、自己しよ
うかいの後、みんなから拍手をもらい、これから楽しくやっていけそうな気がした。

ちやうど、校門から道路に出ようとするとき、同じクラスのみかさんに声をかけられた。

「ねえ、あゆみさん。私たちなんだか仲良しになれそうな気がするの。その訳は後でゆっくり
話すね。で、早速だけど、これから一緒に遊ばない。時間と場所は後でメールするから、携
帯電話のメールアドレス教えて。」

「こちらこそ、よろしく。でも、ごめんね。私、携帯電話……、持っていないの。その代わり
うちの家の電話番号、教えるから。」

と、言って、メモ用紙に家の電話番号を書いてわたした。

みかさんは、メモ用紙を受け取ると、がっかりした様子で、

「えっ、携帯持っていないの。ううん、じゃあ、またね。」
と、言って、帰ってしまった。

私が前にいた学校では、携帯電話は本当に必要なかったし、親からもまだ早いだろうと言わ
れていたの、持っていなかったのだ。

(九月二日)

新しい学校での二日目。教室に入ると、みんなの視線が何だか自分に向けられていることに
気付いた。思い切つてとなりの席の男子に聞いてみた。

「ねえ、なんでみんな私の方を見ているんだろう。」

「それはね、たぶん、あゆみさんのことが書かれたメールのことだと思うよ。」

「えっ。何て書いてあったの。」

「今度転校してきたあゆみさんは、前の学校で仲間外れになっていたの、この学校に転校し
てきたんだって。ねえ、それ本当なの。」

私の心は、おどろきでいっぱいになった。

(どうして私がそうなってしまうの。このままだと本当に仲間外れになってしまう。)

私は、どきどきする胸の鼓動を聞きながら、帰りの会で発言した。

「私は、前の学校で仲間外れにされたりしていません。みんなと仲良しでした。

*根も葉もないことをメールで勝手に流されたりして、とても悲しいです。

みんながメールのことを本気にしてしまうといやなので、

勇気を出して言いました。」

帰りのあいさつの後、先生が声をかけて

くれたが、わき目もふらず家に帰った。

「あゆみに電話よ。」という母の声が

聞こえてきたのは夕方四時ごろだった。

根も葉もない
全く理由がない。



(九月一日)

二学期が始まった日、転入生をむかえた。転入したあゆみさんは自己しようかいでこんなことを言っていた。

「私は、漫画が好きで、読むのもかくのも両方好きです。特に、最近は漫画をかくことに夢中です。早くみんなと友達になりたいです。よろしくお願いします。」

私はびっくりした。それは私の趣味と全く同じだったからだ。私も漫画が大好きで、最近はおくほうに夢中だった。

(よし、あゆみさんと友達になって、漫画をかくて遊ぼう。)

まずは、メールアドレスを聞いて、それから遊ぶ時間と場所を決めようと思い、あゆみさんに声をかけた。

私は、再びびっくりした。あゆみさんは、携帯電話を持っていなかった。せっかく、漫画の話ができると思ったのに……。家の電話番号が書かれたメモ用紙は、小さく丸めて、ポケットにつっこんだ。

もしかして、あゆみさんが携帯電話を持っていないということは、友達と連絡できないということ……。ということは、友達があまりいない子だったのではないか、などと思ひ、

《今度の転校生、携帯持ってないんだって。友達あまりないみたい。これは推測だけど。》と、メールに書いてクラスの友達に送った。

(九月二日)

朝、教室に入るとクラスのみんながあゆみさんのことをうわさしている声が耳に入った。

授業も終わり、帰りの会で、いきなりあゆみさんが手を挙げて言い出した。それは、前の学校の根も葉もないことをメールで流されたということだった。なんで、そんなことがメールで流れたのだろう。

放課後、クラスの友達に聞いてみた。

「さっきのあゆみさんの話だけど、どんなことが書いてあったの。」

「私のメールには、『今度の転校生は、携帯を持ってないから、仲間外れにされて、この学校に入ってきたらしい。』と、書いてあったよ。」

私は、それを聞いて、はっとした。まちがいない。それは、私が書いたメールがいつの間にかこんなことになっていたので。私の思いこみがこんなことになってしまうとは……。

頭の中は、あゆみさんのことであっぴいになった。

私が、電話番号の書いてあった紙をきれいにもどし、あゆみさんの家に電話したのは夕方のことだった。



(4) けんきょに、広い心をもちたい

寄りそうこと、分かり合おうことから

私の周りにはたくさんの方がいるけれど
一人として同じ人はいない。
感じることも、思うことも、そして考えることも
きっとみんなそれぞれ。

だからたがいに認め合い、受け入れ合って
生きていくことが大切。

自分とは異なる意見にも耳をかたむけ
なぜそのような立場をとるのかを
相手の気持ちに寄りそって考えてみましょう。



どうすればみんなが楽しめるのだろう

私は私と
思っている
自分



相手のことが
許せない
思うことが
ある自分



私のことを
分かってほしい
思っている自分



素直な気持ちで 向き合って

人間はときにわがままで、
独りよがり。
そのことに気付いていれば
きっとだれでも
相手と素直に向き合える。

相手の立場に立って

自分とはちがう意見や考え方を
認めるのは難しいこと。
そんなときは、
相手の立場に立って考えてみる。
そこから分かることもある。

ちがう意見を 受け止めて

自分と意見が
ちがうからこそ
その人から
学ぶことができる。

貧しい農家に生まれ、早くに両親をなくしたジャン・バルジャンは、姉とその子供たちのために、一切のパンをぬすみ、ろう屋に入れられてしまいました。



十九年におよぶ刑期を終えて、ジャンは、ろう屋を出ました。



ようやく、ある町までやって来ますが、どこの宿にもとめてもらえず、食事もできないで、困り果てます。

ジャンは、その夜、夕食のテーブルに並んでいた銀の食器のことを思い出しました。「あれを売ったら、高く売れるぞ。」ジャンは、ベッドから起き上がると、銀の食器をぬすみ出し、にげ去ってしまったのでした。



次の日、とらえられたジャンは、兵隊に連れられて司教のところへやってきました。司教は、銀の食器はぬすまれたのではなく、ジャンにあげたものだと言います。そして、「この銀のしよく台もあげたのに、忘れて行きましただね。」と言って、ジャンにしよく台を手わたします。おどろいて立ちすくむジャンに向かって、司教は、「これは、あなたが正直な人間になるために使いなさい。」と、そつとささやきました。

ジャンは、ミリエル司教の教会にたどり着くと、訳を話してとめてほしいとたのみました。

ミリエル司教は、ジャンを招き入れると、食事をふるまい、ベッドを用意してくれました。



●ミリエル司教は、なぜジャンに、銀のしよく台まで手わたしたのでしょうか。

この話は、ビクトル・ユーゴー作『ああ無情』の一場面です。

この後のジャンの人生がどうなったのか、続きを読みましょう。

今年も、都にサーカスがやってきた。

満員のサーカス小屋に、開幕を告げるファンファーレが鳴りひびいた。大王アレキスを招いての、サーカスの初日。ゲートを走り出る馬の衣装も、一段ときらびやかだった。きれいな曲芸で観客を楽しませた馬たちがゲートの中に消え去ると、サーカスの花形、空中ブランコが始まった。

花形
その分野で人気があり、注目を集めている人や事柄のこと(シ)。

ブランコ乗りたちが空中をまう。二人組、三人組とわざが高まるにつれ、拍手は大きくなった。演技を終えて、高い舞台から手をふるブランコ乗りたちに、観客はおしめない声援を送っていた。そのとき、一人が再びブランコに飛び乗った。

(一体何が始まるのか。)

観客の目は、そのブランコ乗りにくぎ付けになった。

(サムをやつ。あれほど言っておいたのに。)

ゲートの赤いカーテンのすき間から、ピエロは、こみ上げるいかりをこらえながらブランコを見上げていた。

ピエロは、サーカス団の古くからのスターであり、団員たちをまとめるリーダーでもあった。ブランコ乗りのサムが、ここの団員となったのは、つい半年ほど前のことだった。



他国の大きなサーカス団から招かれたかれは、入団早々からスター気取りで、ピエロの言うことさえ、真面目に聞こうとしなかった。そんなサムの態度に、ピエロはいつも腹を立てていた。

今回のことも、そうだった。

「サム。アレキス様のサーカス見物は、毎年一時間と決まっている。その大切な一時間の中で、今年、出番をもらえたのは、馬の曲芸と空中ブランコ、そして、この私の三つだけなのだ。だから、いつものように一人で目立って、いい気になって、時間を延ばすんじゃないぞ。分かったか。サム。」

「またお説教か。スターが目立って、何が悪いというんだ。ああ、そうか。分かったよ。あんたも大王様の前で目立ちたい、そういうことだろ。」
いつも以上に強い口調でピエロに言い返すのだった。

大歓声の中、サムはブランコを止め、その上でゆっくりと逆立ちを始める。後は、息もつかせぬわざの数々。手を変え品を変えて、観客を楽しませた。サムがブランコの柱を下りたとき、すでに約束の一時間は過ぎようとしていた。大王アレキスの一行は、拍手に送られて予定通りにサーカス小屋を後にした。拍手の音が遠くに聞こえるゲートのおくの通路で、演技を終えてぐったりしているサムと、舞台へ向かうピエロがすれちがった。ピエロは一瞬立ち止まらなかったが、足早にゲートへと走って行った。

ピエロは、いつものような陽気なしぐさで舞台に立った。かれの曲芸はい

つも以上に力が入っているように見えた。

つなわたり。ライオンの火の輪くぐり。アクロバット。サーカスの初日は大盛況で幕を閉じた。しかし、ひかえ室に集まった団員たちの顔に、笑顔はなかった。団員たちは、サムに対するいきりど、ピエロに対する同情で固く口を閉ざしていた。

しばらくして、サムが、机をたたいて立ち上がった。

「なぜ、だまっているんだ！ 言いたいことは分かっているよ。しかし、サーカスは大成功じゃないか。私はこのサーカスのために、夢中になって演技をしたんだ。その私の何が悪いというんだ。」

団員たちは、だれも答えなかった。

(無視されている。)

そう思うと、サムはいつそう腹を立て、いすをけりたおした。

そのとき、部屋の片隅にいたピエロが立って、静かに話し始めた。

「今日、ゲートに向かう通路でサムとすれちがったんだ。演技を終えたばかりのサムを見たのは初めてだった。かたで息をしているサムの顔は、真っ青で、そばにいる私にも気付かないほど、つかれ果てていた。」

(一体、何を言い出すのか。)

サムは、ピエロの横顔をにらんだ。

「そのサムの姿を、私は、今も思い出していたんだ。私も目立ちたかった。最初はサムをブランコから引きずり降りたかった。でも、カーテンの隙間から見たサムの演技と、終わった後のつかれ果てた姿を、何度も思い出しているうちに、私の心の中からもなぜかサ

ムをにくむ気持ちも、消えてしまったのだ。」

ピエロのおだやかな目が、サムの目を見つめた。ピエロは続けた。

「サムは、カいっぱい頑張っている。だから、観客の心を打つのだということが分かったよ。これから私は、サムを手本に努力していくつもりだ。サムのおかげで、今日はいい演技ができた。でも、サム。このことだけは、君にも分かってほしい。おたがいに、自分だけがスターだという気持ちは、捨てなければならぬと思うんだ。このサーカス団のためにも。」

ピエロの言葉が、うつむいているサムの耳に強く残った。

夜がふけても、団員たちが引き上げていったひかえ室に、サムとピエロの声だけがいつまでも聞こえていた。自分だけがスターだという気持ちを捨てた二人にとって、一緒にいることは、少しもつらくなかった。

いつしか、朝日が二人の顔を照らしていた。

一か月が過ぎ、都でのサーカスも、最終日をむかえた。

ブランコ乗りが空中をまう。その中に加わったピエロが、こっけいなしぐさをして、わざと落下する。観客から大きな笑いと拍手。ブランコ乗りとピエロの共演も、今日が最後だった。

全てを終えたひかえ室は、団員たちの明るい笑い声に包まれていた。そこには、大王アレキスから届けられた料理とシャンペンが、所せましと並べられていた。



大盛況
とても多くの人が集まりさ
かんさま。

(5) 支え合いや助け合いに感謝して

支えてくれる人たちがいる毎日

私たちは、毎日の生活の中で多くの人々に支えられ、いろいろな人のお世話になって生きています。

当たり前になっていることも、それを支えてくれていてくれるだれかがいます。あなたはどのようにして感謝の気持ちを伝えますか。



感謝の言葉「ありがとう」

ありがとう

漢字で書くと……

有難う

「ありがとう」の言葉の元は、「有^あり難^{がた}し」です。

これは、「有^あることが難^{がた}しい」、「減^め多^たにな^ないほどすばらしいもの」という意味があります。

感謝の心は
最大の美德のみならず
あらゆる美德の両親である
マルクス・トゥッリウス・キケロ
(古代ローマの哲学者)

感謝の心を
忘れてはならない。
感謝の心があつて初めて、
物を大切にする気持ちも、
人に対するけんきよさも、
生きる喜びも生まれてくる。

松下幸之助
(実業家)

支えてくれる その思いを感じよう



● いろいろな人の支えと、その思いについて気付いたことを書きましょう。

支えてくれている人 ()

()

支えてくれている人 ()

()

支えてくれる その思いに応えよう

支えられていることに感謝し、その思いに応えるために、どのようなことができるでしょうか。

● 家庭、学校、地域であなたを支えてくれている人の思いに応えるために、どのようなことをしてみたいですか。

だれに

どのようなこと

● 高学年としてできることの例

だれに 運動会の準備を手伝ってくれた地域のみなさん
どのようないふ

「ふるさと交流会」を企画して、地域のみなさん
を招き、感謝の気持ちを伝えたい。

だれに

どのようないふ

黄熱病とのたたかい

ニューヨークから北へ車で四時間。山と湖に囲まれた避暑地の山荘で、静かに物思いにふけっている男がいた。世界的に有名な医学者、野口英世である。

英世は、四十一歳のこの年、病気が重なり、入院するという不運に見まわられた。しばらくこの山荘で、病後の静養をしていたのである。アメリカでの十数年の生活で、こんなにのんびりしたのは初めてだった。

どこことなく故郷の猪苗代に似ている風景をながめていると、幼いときから今までの思い出が、次々とくんでくるのであった。

英世は、仲間から「ねむらない日本人」と呼ばれるほど研究に打ちこみ、世界的に注目される研究成果を次々と発表してきた。そして、世界の一流学者の証明であるロックフェラー医学研究所の正員となった。慣れない外国での生活、仲間との激しい競争、それらを乗りこえて最高の喜びを手にしたのである。

英世がここまで来るには、実に多くの人々の支えがあった。

(くじけそうになる自分をいつもはげましてくれた母。自分の才能を見だし援助してくれた小林栄先生。やけどの左手を手術し医学の道に導いてくれた渡部鼎先生。アメリカにわたるまでの一切の面倒をみてくれた血脇守之助先生。アメリカでの研究生活を親身になって支えてくれているフレクスナー博士。さらに、自分の度重なる借金の申し入れに応じてくれて

いる数多くの友人たち……)

英世は、思い出すたびに目頭が熱くなった。しかし、自分はその人々の期待に十分にこたえているだろうか。今までのことをふり返りながら、いまだに他人の善意にあまえきっている自分を情けなく思うのであった。



野口英世の生家（野口英世記念館）。手に大やけどをしたいろいろがある。

このころ、アメリカでは、黄熱病に関する研究に大きな関心が寄せられていた。黄熱病は、中南米やアフリカなどに発生していた病気で、ある。当時、コレラやペストと並んで、最もおそれられていた感染症の一つであった。

ロックフェラー医学研究所の所長であるフレクスナーは、エクアドルにある黄熱病の研究グループに優秀な学者を推薦してほしいと、たのまれていた。もちろんかれは、英世を推薦しようとした。しかし、十分に健康を回復していない英世に、そのことを言うべきか迷っていた。

「野口君、黄熱病の研究グループの一員に推薦しようと思うのだが、どうだろうか。ただ、私としては君の体のことが心配なんだが

野口英世
(一八七六—一九二八)

避暑地

高原など、夏の暑さをしのぐために適(てき)した土地。

静養

病氣やつかれを回復させるために心身を休めること。

ロックフェラー医学研究所
ロックフェラー大学の前身
石油王ロックフェラーが設立。多くの歴史的大発見がなされ、多数のノーベル賞受賞者を出した。

黄熱病

アフリカ、中南米の熱帯地域(ちい)きの風土病(蚊(か)に)に)さされることで感染する。発病後の特効薬は現在もないが、ワクチン接種により発病を予防できるようになった。



アフリカのガーナに建つ野口英世の銅像(どうぞう)

ね。」

思い切ったたずねてみた。

病み上がりの体で、黄熱病の流行する熱帯地域へ行くのは危険だと仲間たちは心配した。だが、英世は答えた。

「所長、ぜひ行かせてください。私の体はもう大丈夫です。」

新たな研究への情熱と、周りの期待に応えたいという思いでいっぱいだった。

エクアドルに着いた英世は、次々と新しい発見をし、独自のワクチンを作って治療に当たった。こうした英世たちの努力で、中南米をおそった黄熱病のあらしも、どうにか収まった。しかし、英世と黄熱病とのたたかいは、その後も休むことなく続けられた。

英世が黄熱病の研究に取り組んで十年がたったころ、西アフリカで再び黄熱病が流行し、多くの命がうばわれた。英世はじっとしていられず、アフリカに行くことをフレキシスナー所長に申し出た。

「所長、今度こそ、病原体をつきとめる最後のたたかいです。」

「野口君、その体では無理だ。君はここで研究したまえ。」

英世のおとろえた体を気づかったフレキシスナー所長は、英世のアフリカ行きに強く反対した。だが、英世はせかされるようにアフリカへと向かった。

アフリカにわたった英世は、つかれた体にむち打ち、研究に打ちこんだ。しかし、とうとう英世自身が黄熱病にかかり、たおれてしまったのである。

高い熱にうなされながら、英世はなつかしい母の夢を見た。

「お母さん、私は好きな研究を続けることができ満足です。このようにできたのも、みなさんのおかげです。」

「英世や。お前は自分の仕事に一生懸命頑張ってきたんだ。その気持ちはきつとみなさんにも伝わっているよ。」

英世は、多くの人々のいのりもむなしく、静かに息を引き取った。英世の死は、新聞などによってすぐに世界の国々に広がり、世界中の人々が英世の死をおしんだ。

ニューヨーク市ブロンクス区にあるウッドローン墓地には、「科学へのこうけんを通して、人類のために生き、人類のために死す」と刻まれた墓碑が建てられており、かれの業績を後世に伝えている。

3 命をいとおこす

- (1) 自他の生命を尊重して
- (2) 自然の偉大さを知って
- (3) 大いなるものを感じて

(1) 自他の生命を尊重して

限りあるたった一つの命だから

私たちは、たった一つのかけがえのない命をもらった。草や木にも、動物たちにも、私にもだれにでもたった一つの命。

命は、自分の力で生かしていくもの。そして、多くの人たちに生かされていくもの。

かけがえのない命、限りある命だから精一杯かがやかせたい。



読んでみよう

人類愛の金メダル

昭和三十九（一九六四）年、東京オリンピックのときのことです。

ヨット競技は、神奈川県えの江の島しまおきで行われていました。十月十四日、この日は、風が強くとてもあった天気でした。

ヨット競技では、選手二人が乗ってレースをします。スウェーデンチームのハママ号には、ラーズ・キエル、スリグ・キエルの兄弟が乗っていました。

ハママ号は、あれる海の波に乗り上げながら、今まさに先頭グループに追いつ

こうとしていました。

そのときです。前を走るオーストラリアのダイアブロ号が、強い風にゆらされ、乗っていたウィンター選手が海に投げ出されてしまったのです。

もう一人のダウ選手は、横だおしになったヨットのマストにつかまっているのがやっとです。その様子に気が付いたキエル兄弟は、危険にさらされている人を見過みすごすわけにはいかないと、レースを中断ちゆうだんして、ウィンター選手に向かつてロープを投げ、ハママ号に救い

上げました。

その後、事故じこを知ってかけた救助の船にウィンター選手を送り届け、ハママ号は、レースにもどりました。しかし、結果は十一位でした。

事故を知ってかけ寄よってきた新聞記者に対して、キエル兄弟は、海の男として当然のことをしたただけだと語ったそうです。

翌日よくじつの新聞記事には、勝敗より命を大切にされたこの出来事が大きくしようかいされています。

この世に生を受けたものは、いつかは死をおかえます。
私たちの命の長さは、人によって様々です。
生まれてすぐなくなる人もいれば、病気や事故でなくなってしまう人もいます。また、百年以上生きる人もいます。



私たちの命は、様々な人々との支え合いの中で育まれていきます。家族や親類、先生や友達など、私たちはたくさんの人たちとの関わりの中で生かされています。
命は、私たちの先祖から自分、そして私たちの子孫へと受けつがれていきます。

今、多くのひととの関わりの中で生きていく

低学年のころ



赤ちゃんのころ



自分の命を見つめてみよう

●自分の周りの人たちに、幼いころの自分の様子やエピソードを聞いてみましょう。

今の私

●人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さ、共に生きることのすばらしさなどを考えてみましょう。

小学校入学前



ぼくには、小さいころからぼくをうんとかわいがってくれたじいちゃんがいる。でも、そのじいちゃんが、あと三か月で死ぬかもしれないなんて……。

今日、学校から帰って来ると、お母さんが深刻な顔をして言った。

「話があるの……。」

ぼくは、この前のテストのことですけられるのかと、ちょっと構えた。お母さんの口調は静かだった。

「ねえ、大地……。この前じいちゃんが入院したとき、お母さんは、長生きするようにいろいろとみてもらっているのよって言ったわね。でもね、本当は……。じいちゃんは重い病気であと三か月の命と言われて……。大地にはずっと言わないでおこうと思っていただけ、やっぱりきちんと話して、じいちゃんとの残された時間を大事にしてほしいと思ったの。」

「えっ、あと三か月の命ってどういうこと？」

ぼくは頭が混乱して涙もなくトイレに閉じこもり、こみ上げる悲しさに声を上げて泣いた。目を真っ赤にはらしてやつと出てきたぼくを見て、お母さんが言った。

「お母さんだつてずうつと、もつともつとじいちゃんと一緒にいたいわ。でも、命には、いつか終わりが来るのよ。」

「じいちゃんは、病氣のこと知ってるの？」

「うん。お母さんには言えない。悲しむ顔を見るのはつらいし、それより一日でも多くじいちゃんとの限られた時間を大切に楽しく過ごしたいわ。だから、このままそつとおこうと思うの。」

「うん……。」

次の日から、ぼくは、放課後にみんなと遊ぶのをやめて、学校から帰るとお母さんが用意したぼくの弁当を持って、自転車で病院にお見舞いに行った。

「じいちゃん。一緒に食べよう。」

「うん。大ちゃんと食べるとご飯は特別においしいからなあ。」

「いっぱい食べて早く元気になってよ。」

「うん。また一緒に温泉に行こう。」

ぼくとじいちゃんは、学校の話や小さいころの思い出話をしながら楽しく夕飯を食べた。自分で言うのも何だけど、ぼくは感心にも毎日欠かさず病院に行った。じいちゃんは、ぼくが来るのを楽しみにしていて、病院の売店でぼくの好きなお菓子を買っては、いつも枕元に置いてくれていた。

でも、日に日にじいちゃんはやせていった。一か月もたつと痛みのために強い薬を使うようになって、意識がもうろうとするときがあった。そんなときは、食事どころか話もできなくて、ぼくは静かにベッドのそばのいすにすわって、目を閉じているじいちゃんの顔を見て話した。

「じいちゃん、元気出してね。注射は痛いけど良くなるためだよ。頑張らないと駄目だよ。早く良くなって一緒に温泉に行こうね。」

そんな日の帰り道は、うんとペダルが重かった。もう、このままじいちゃんと話せなくなる

もっとう
ぼんやりとして、はっぴり
しない様子。

のかと思うと、悲しくて力いっぱい自転車をこいだ。

お母さんに言われてから約三か月がたった。じいちゃんの食事は点滴に代わった。もう二人で一緒に夕飯を食べることはできなくなった。でも、ぼくは（今日は、話せるかな。）と、小さな期待を胸に大好きなじいちゃんに毎日会いに行った。

そんなある日、学校から帰るとお母さんがいなかった。玄関に紙がはってあった。『お帰り。病院にいます。』言い知れぬ不安がぼくをおそった。ぼくは、無我夢中で家を飛び出した。

じいちゃんは酸素マスクを付けられて、ピツ、ピツという機械の音だけが病室にひびいていた。瞬時に、ぼくはいろいろなことを察した。

ぼくは、目を閉じて静かに横たわっているじいちゃんの手をにぎった。小さいころから何千回もつないでもらったじいちゃんの手だった。「ハア、ハア。」静かな病室には、じいちゃんの息づかいだけがあった。ぼくはじいちゃんの耳元で言った。

「じいちゃん。きつと元気になるよ。もう少ししたらきつと良くなるよ。そしたら、じいちゃんの大好きな温泉にまた一緒に行こうね。ぼくが連れて行ってあげるよ。だから、じいちゃん。元気出してよ。頑張るんだよ。」



そのときだった。じいちゃんは無言のまま、このぼくの手を弱いながらもにぎり返してくれた。その夜おそく、じいちゃんは、ぼくと手をつないだまま天国に旅立った。ぼくは、どうしようもないぐらい悲しくて、じいちゃんの布団に顔をうずめて声を上げていっぱい泣いた。しばらくたって、看護師さんが、じいちゃんの酸素マスクを外そうとちよつと頭を持ち上げてまくらを外したときだった。

「あらっ……。」

じいちゃんのまくらの下にあったのは、しわくちゃののしぶくろだった。

「大ちゃんへ。お誕生日おめでとう。いつもお見舞いに来てくれてありがとう。これからもずっと大ちゃんのことを見守っているよ。」
ふるえて力のないじいちゃんの字だった。

ぼくの誕生日は、一か月も先だった。

「じいちゃん……。」

じいちゃんの温かな、そして強い思いがぎゅっと
ぼくの胸いっぱいにおし寄せた。



かけがえのない命

命でんでんこ

僕は思う。あの日の体験をこれから生きていく人々に伝えたい。

三月十一日、十四時四十六分、大きな地震が東日本を襲った。僕たちは体育館で卒業式の練習をしていた。先生の声で校庭に出た。校庭はまるでゼリーのようになり、波打ち、泣き出す人もいた。みんなで励まし合いながら恐怖に耐えていた。そして、「逃げる。」という声が出て、何がなんだかわからないまま、僕たちは学校の裏山に登った。津波はものすごい速さで町を飲み込み、さっきまでの町並を一瞬でがれきに変えてしまった。声も何も出なかった。ただこわくて体が震えた。津波を目の前で見て、何もできない僕たちはおろおろするだけだった。

その日は、全校生徒が田老総合事務所で一夜を明かした。消防団の父さんに、夜二十三時頃に会えてとても安心したが、寝るにも寝られない夜だった。夜が明け、外を見ると、がれきの上に雪が積もっていた。昔から津波の次の日は雪が降るといふ言い伝えがあるらしい。言い伝えのとおりすぎて驚いた。そして、がれきの上の雪は僕たちをますます悲しくさせた。

明るくなるにつれ、家の人が出てきて、みんな家へと帰って行った。家の人があるたびに、

涙を流す仲間の姿を見送った。

三日目、千徳の祖父の家に行った。電気も水もガスも復旧していて、その違いに驚いた。でも僕はなんだか落ち着かず、じっとしていられなかった。「父さんと一緒に消防団の仕事を手伝いたい。」と言った。生きている人がいるかもしれないと、一生懸命にがれきの中を父さんと歩いた。

僕ががれきの中を歩きながら思ったことが二つある。一つは「命でんでんこ」という言葉の深い意味。命より大切なものはありません。どんなことがあっても逃げることを考えてください。命があればどうにでもなります。未来に向かって歩き出せます。

もう一つは、負けたくないと思っただけです。田老は今まで何度も津波の被害にあい、それを超えることができた町です。校歌の三番には田老一中生の進むべき道が示してあります。

防浪堤を仰ぎみよ

試練の津波幾たびぞ

乗り越えたてしわが郷土

父祖の偉業や跡つがん

僕はその日のことをたくさんの人に伝えたい。命を大切にしようと思いたい。そして、決してあきらめず僕らの未来を作りたい。

(2) 自然の偉大さを知って

自然のめぐみを共有して



この地球の大自然は
人類が誕生するよりずっとずっと昔から
長い長い時間をこえて存在してきた。
私たちはこの大いなる自然に生まれ、
生きている。

東北地方に「布施がき」という風習がある。
厳しい冬を前にした秋、
かきもぎの作業をするときに
その全部をとらずにいくつかを残しておく。
そう、それは他の生き物たちのために。

人は豊かな自然のめぐみに
感謝しながら生きている。
自分たちのことばかりでなく
過酷な自然の中で生きている
他の生き物たちに心を通わせ
人はかきの実を枝に残す。



私たちに何ができるのだろうか

わたり鳥は、
豊かな自然を求めて、
はるか空の旅を続ける。
鳥たちの行き着く先には、
めぐまれた自然が
なくてはならない。
しかし、日本をふくめ、
世界の各地で
自然環境の悪化が
大きな問題となっている。
私たち人間は、
どうやってこの自然を
守っていくことができるだろうか。



● 私にできること

話し合ってみよう

こわされていく自然環境

自然は一度こわれてしまつたら

簡単には元にもどらない

年々とけていく南極の氷河

白化したサンゴ



日本での絶滅が心配されている生物



タンチョウ



リュウキュウヤマガメ



オオクワガタ



イリオモテヤマネコ



ニッポンバラタナゴ



クマガイソウ

なぜ自然破壊が起こるのかをみんなで話し合ってみましょう。

自然をこよなく愛した人



潮や風……、

あらゆる自然の力を用ひ尽くして
諸君は新たな自然を形成するのに
努めねばならぬ。

宮沢賢治
（一八九六―一九三三）
詩人・童話作家

数々の作品の舞台(ふたい)となった岩手山



詩人で童話作家の宮沢賢治は、子供のときに、石を集めるのが好きで、石を拾ってきてはながめていたそうです。
賢治の書いた童話には、石が出てきます。「銀河鉄道の夜」には、サファイア、トパーズなど。くじやく石は「ひかりの素足」に、こはくは「マグノリアの木」に、そしてアメジストやルビー、ダイヤモンドは「十力の金剛石」に出ています。
子供のころから、石や虫などに興味をもち、岩手山などの雄大な自然に囲まれて育った賢治は、豊かな感性で自然と心を通わせていました。その自然に対する思いは、賢治の作品に散りばめられています。



賢治が名付けたイギリス海岸(北上川)

(3) 大いなるものを感じて

人間の力をこえたものに感動し、心を打たれることがある

雨上がりの虹、真っ赤な夕日、
かがやくオーロラ。

おし寄せる流氷、水しぶき上がる滝。

自然が織りなす現象や景色に圧倒され、
心を打たれることがある。

人間の力をこえた神秘的な世界に

向き合ったとき、

大いなる自然の美しさや偉大さを感じる。

そしてそれらに感動する

人間の心のすばらしさをかみしめる。

夕日 (和歌山県)



アルゼンチンとブラジルにまたがる
「イグアスの滝」



美しい地球 生命宿る地球

青い空に浮かぶ白い雲を見上げたことがあるでしょう。その雲を突き抜けてロケットに乗ってさらに昇ってゆくと、空の青い色がだんだん濃く黒ずんできます。しまいには空は真っ暗になり、星がたくさん光って見えてきます。

そこはもう空気のない宇宙です。しかしそんな真っ暗いなかでも太陽を見ると目が開けられな
いほど白くまぶしく輝いています。目をそらして、ここまでロケットであがってきた方向を振り
返ると、太陽に光を浴びて、青く、白く輝く大きな地球が丸く浮かんでいます。

青い色は地球を取り囲む大気と水です。白い色は今突き抜けてきた雲です。雲は丸い地球の表
面にくっついていてるかのように、つながってたくさん浮いています。その雲の下には約七十億人
ものひとびとが住んでいます。その中にはもちろん家族も友人もすべてのひとびとが含まれます。
人間だけではありません。五千万種とも言われるたくさんの生物も一緒に生きています。空気、
水そして太陽の光のおかげでこんなにたくさん生命が地球上にあふれています。どの生物も宇
宙からはあまりに小さくて肉眼で一つ一つを識別することは不可能です。宇宙からは見えな
けれど、確かに昔から生命は地球上で、お互いにずっとかわりながら生き続けてきました。宇宙
は空気や水がないので、私たちが一瞬たりとも生きてはいけない場所です。

そう考えながら、あらためて美しく輝く地球を眺め「人間は多くの他の生命を大事にしな
がら一緒に生きてゆくことが大切だ」と、心から思いました。

毛利 衛
(宇宙飛行士)

奥村土牛は、明治二十二（一八八九）年、東京に生まれました。土牛という名は、「生まれた年がうし年ということもありましたが、牛が石ころの多いあれ地を耕し、田に変えるように、おそくともよい、たゆまず根気よく、美しい物を探し続けなさいという願いで付けたものだと思う。」と土牛は語っています。

「自然には、どんなものにも命がある。私は、その命の美しさを、この筆でえがき続けたい。」それが土牛の願いでした。百歳のとき、土牛は平成の富士をえがく決心をしました。思うように体は動かなくても、気力で絵筆をにぎる日々が続きました。土牛にとっては、富士山の秘められた美しさは、えがいてもえがいてもつきないもののように思えたのです。

途中、何度か体調をくずしながら、平成二（一九九〇）年の秋、新作「平成の富士」を出品すると、多くの人々はその出来栄に心を打たれました。このとき土牛は百歳。この絵は「百歳の富士」としてたたえられたのです。

6年

5年

●人間の力をこえていると思えるものに出会い、感動したのはどのようなときですか。



日本画「平成の富士」奥村土牛作

美しいものを探して



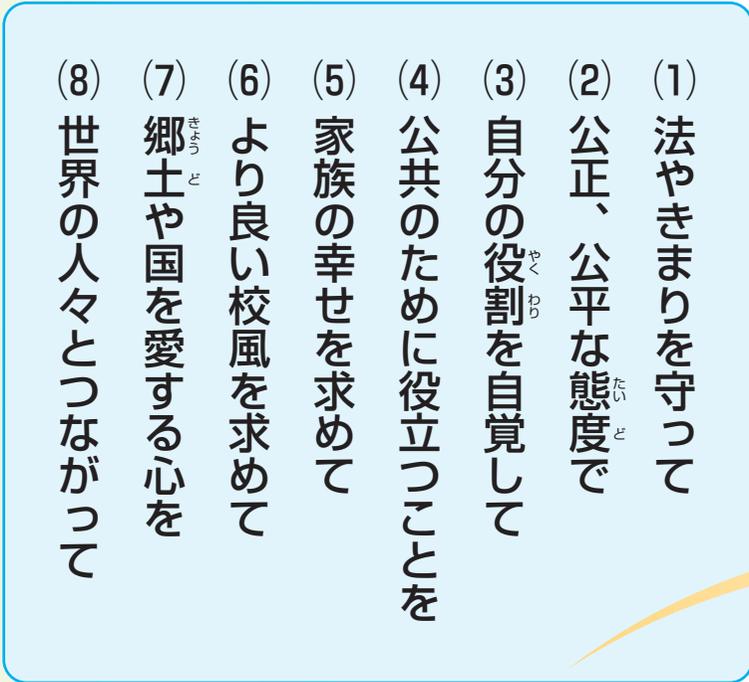
奥村土牛
（一八八九〜一九九〇）
日本画家。
「鳴門」「醍醐」「吉野」などの作品がある。



芸術に完成はありません。大事なことは、どこまで大きく、未完成で終わるかです。

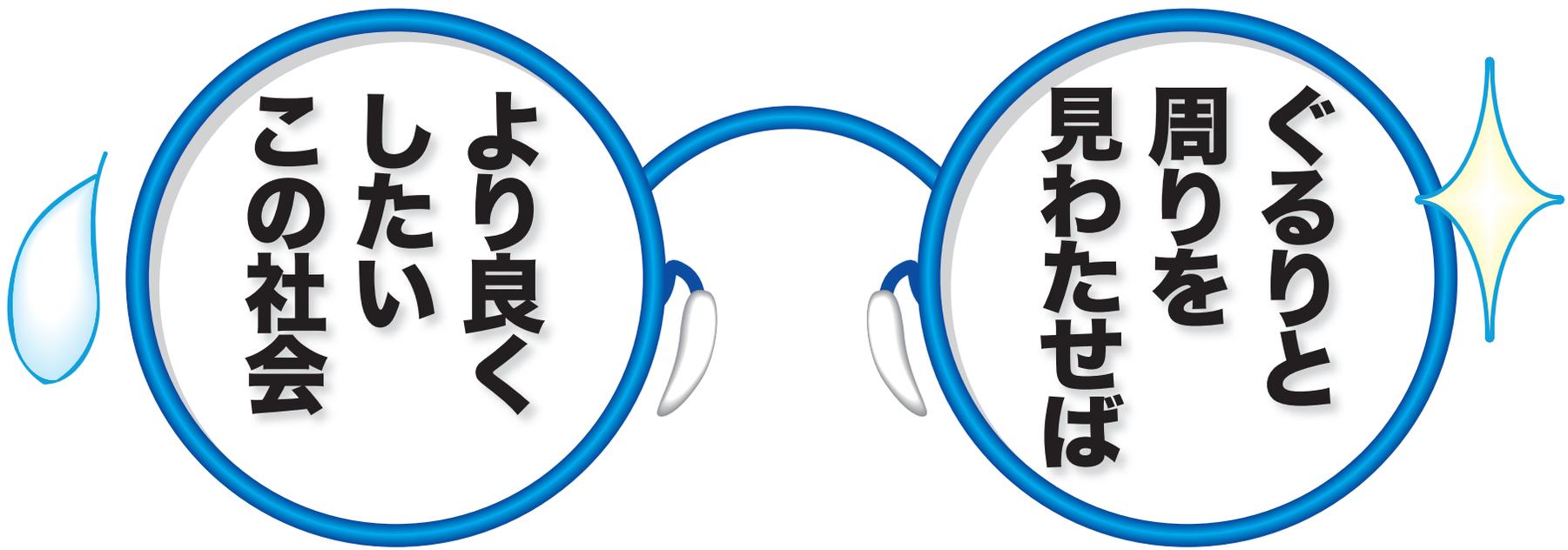
奥村土牛

4 みんなとつながって

- 
- (1) 法やきまりを守って
 - (2) 公正、公平な態度で
 - (3) 自分の役割を自覚して
 - (4) 公共のために役立つことを
 - (5) 家族の幸せを求めて
 - (6) より良い校風を求めて
 - (7) 郷土や国を愛する心を
 - (8) 世界の人々とつながって

(1) 法やきまりを守って

考えよう、これからの社会と私たち



社会をつくるのは私たち自身、社会を守っていくのも私たち自身。
 住んでいて良かったと思える社会をつくっていくには、どうすればよいでしょうか。



「ながら運転」、思わぬ大事故にも……



川や海や湖が……



きちんと分けて……



ここはキャンパスじゃない



歩道がいつの間にか……

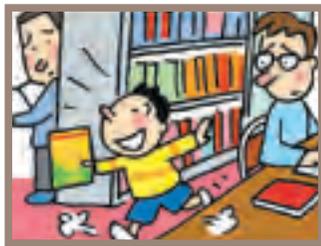


電車の中だけ……



どっどこかに空き缶が……

●きまりやマナーを守らないとどのようなことになるのでしょうか。



きまりやマナーを守ることは、一人一人が心がけるべきことです。
ところが、自分勝手な行動があちこちに見られます。どうして、きまりやマナーを守ることができないのでしょうか。

●きまりやマナーを守ることが大切なのはなぜでしょうか。

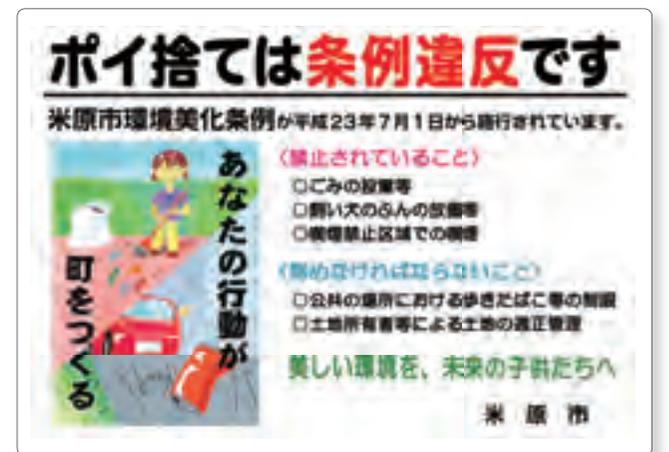
6年

5年

話し合ってみよう

社会のきまりやマナーを守ること

町の中では、いろいろなところできまりやマナーに関する掲示物を見ることがあります。こうした掲示物が多い理由を考えてみましょう。



権利とは、義務とは何だろう

私たちは、一人一人が権利をもち、義務を果たしながら社会の中で共に生活しています。

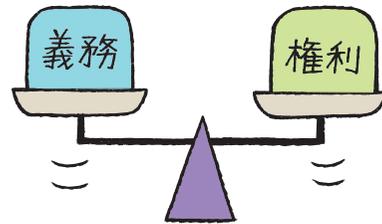
権利

ある物事を、自分の意思によって自由に行ったり、他人に要求したりすることのできる資格や能力。

義務

人がそれぞれの立場に応じてしなければならないことやしてはならないこと。

だれかが一方的に自分の権利ばかりを主張して義務を果たさなかったり、一方的に義務だけをおし付けられたりするようなことがあったら、どうなるでしょうか。私たちの生活や社会はうまくいくでしょうか。



私たちはだれでもより良い社会に生きる権利がある。より良い社会をつくる義務がある。

● 権利や義務について、学んだことや考えたことをまとめてみましょう。

日本国憲法が定める国民の権利と義務

日本国憲法では、人が人として当然もっている権利で、生まれてから死ぬまで、すべての国民に保障されている権利を「基本的人権」として尊重することを定めています。

また、同時に、国民が果たさなければならない義務についても定めています。

権利 (例)

教育を受ける権利
政治に参加する権利(参政権)
思想や学問の自由
健康で文化的な生活を営む権利(生存権)

義務

子供に教育を受けさせる義務
仕事について働く義務
税金を納める義務



衆議院議場
衆議院の本会議が開かれる
場所。国会議事堂の中にあ
る。

「これが衆議院議場なのか。」

健一は、テレビで見た衆議院議場を
目の当たりにして圧倒されました。

「ここで、たくさんの法律が決められ
ます。」

案内の人が説明してくれました。

（ここで国の法律を決める。ぼくらは
校庭遊びのきまりも守れないの
に……。）

発端は、明と鉄男がゲームの販売日
に、校庭遊びのきまりを破ったことで
した。高学年が遊べる時間は、低学年、
中学年の後だったのに、ゲームの販売
時刻までに帰りがかった明と鉄男は、
低学年の時間にサッカーをした後、

ボールを出しっ放しにして帰ったのです。

翌朝、健一が、明と鉄男に言いました。

「自分たちで決めたままりを破るなんて、駄目だよ。」

すると、鉄男が冷やかすように言いました。

「はいはい、健一君の言う通り。でもさ、自分の遊ぶ権利は主張しなくちゃね。」

（それって、権利って言うのかなあ。）

健一が迷っていると、すかさず、

「そうそう、ぼくの遊ぶ権利や買う権利をうばわないでほしいね。」

と、明が言うのでした。

悪いことに、次の日には、他のクラスからも勝手な行動をする人が出ました。

「今日は習い事があるから低・中学年の時間に遊ぼう。」とか、「楽しみなテレビ番組に合わせ
て時間を決めよう。」などの理由できまりを破るようになったのです。

そして、とうとう鉄男のけたたボールが一年生に当たってしまい、放課後の校庭遊びは休止
になってしまったのでした。

この翌週に、社会科見学で国会議事堂を見学することになったのです。

「さて、ここが参議院議場になります。わが国の国会では、大切な取り決めをより慎重に行う
ことができるように、先ほどの衆議院と参議院の二つの議院から成り立っています。」

案内の人の話を聞きながら、健一たちは改めてきまりについて考えてみました。

(国会議員の人たちは、大事なことを衆議院、参議院の二か所で順番によく話し合って決めている。議員の人たちは、様々なことを調べ、考えて、国のきまりを作っているんだ。)

「校庭遊びのきまりだって、確か学級で話し合って、代表委員会に提出して決まったんだよね。」

「そうだよ、ぼくは代表委員として校庭遊びのことを提案したんだ。全学年で校庭を使うには、せまくて危ないので、高学年が後の時間帯にしたらどうかって。スケールはちがうけど、自分たちもみんなが安全で楽しく過ごせるようになって、学校全体のことを考えて……。」

健一は、このきまりを提案したきっかけをふり返ります。

(ぼくたちは何か大切なことを忘れていたのではないか。)

健一の心に疑問がわいてきました。

しばらくして、鉄男がつぶやきました。

「遊びたいときに遊んで得した気分だったけど、結局は一年生が安全に遊ぶ権利をうばってしまった。」

それまでだまってじっと聞いていた明も、

「時間を守るといふ義務を果たさなかったこと、今は後悔している。」
と、つぶやきました。

「きまりを軽く考えて、自分だけはいいかななんて……勝手だった。」

鉄男はしきりに反省しています。

「きまりって何のためにあるのかな。」

健一はもう一度みんなできまりについて話し合ってみたいと思いました。

国会議事堂見学から帰った翌日、学級で改めて「きまりは何のためにあるのか」を話し合うことになりました。



社会で生きる一人として 守らなくてはならない人

ひびのおしえ（ばっすい）
ひとをころすべからず
けものをむごくとりあつかい
むしけらをむえきに
ころすべからず
ぬすみすべからず
いつわるべからず
うそをついてひとの
じやまをすべからず



福澤諭吉

（一八三五―一九〇一）

思想家、教育者。

「ひびのおしえ」は、福澤諭吉が自分の子供たちのために示した教訓集。

人が人として社会の中で生きていく上で、守らなければならない法やきまりがあります。

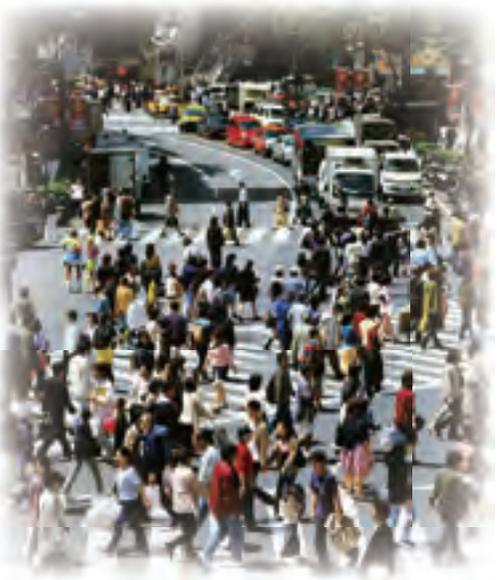
集団や社会は、様々な立場でいろいろな考え方をもった一人一人が集まってできています。

だからこそ、「おたがいに法やきまりを守る」、「してはならないことはしない」などのことが大切なのです。

話し合ってみよう

人として「してはならない」人

みんなが人として守らなければならないことを考えてみましょう。



人として守るべきこととして、他にどのようなものがありますか。また、なぜこれらを守らなければならないのか、話し合ってみましょう。

こんな人はしません

- 暴力をふるってはいけません
- 弱い者いじめをしてはいけません
- 人の物をとってはいけません
- ひきょうなことをしてはいけません
- 人を傷つけるうそをついてはいけません

(2) 公正、公平な態度で

みんな同じ かけがえのない一人の人間

男性も女性も
子供もお年寄りも
世界中の
だれもが
みんな同じ
かけがえのない
一人の人間。



ふと知らないうちに
だれかの心を
傷つけてしまっていることがある。
知らず知らずのうちに
かたよった見方や考え方をしてしまう。
そんなことはないだろうか。



この世の中で
一番大きな苦しみは
一人ぼっちで
だれからも必要とされず
愛されていない人々の
苦しみです

マザー・テレサ
(一九一〇～一九九七)

マザー・テレサは、ヨーロッパの裕福な家庭に生まれながらも、生涯をインドの人たちのためにささげた女性です。
十八歳で故郷をはなれてインドへわたると、あこがれていた修道女としての生活を始めました。そこで貧しさに苦しむ人々の姿を目の当たりにしたテレサは、やがて、「すべてを捨て、最も貧しい人々のために働こう」と決意します。修道院を出て貧民街に移り住み、孤児や病気の人々のために救済活動を始めたのです。

一九五〇年、貧しい人に奉仕する「神の愛の宣教師会」を設立し、そのころから、マザー・テレサと呼ばれるようになります。そして、行きだおれの人々や重症の人々を受け入れるための施設や、孤児を救済するための施設を開設し、貧しい人々や、当時のインドの厳しい階級差別に苦しむ人々に献身的につくしました。

一九七九年に「高貴な人間愛の象徴」としてノーベル平和賞を受賞。受賞にあたり「私は受賞者にあたいしませんが、貧しい人々に代わって、この名誉ある賞を頂きます。」とコメントしました。

なぜ、かたよった見方や接し方をしてしまうのだろうか

あなたの周りに、つらい思いをしている人はいないだろうか。

人の心を傷つけたり、傷ついている人を見て見ぬふりをしたりしていないだろうか。

●このようなとき、あなたならどうしますか。

そうじの時間です。ごみ箱にたまったごみを、

最後に収集場所に捨てに行くことになりました。

当番だったAさんがごみ箱を持って行こうと

すると、Bさんが

「Aは行かなくていいよ。」

と言いました。

そして、Cさんに向かって、

「C、お前が行けよ。」

と言って、Cさんにごみ箱をおし付けました。

あなたがAさんだったら

あなたがCさんだったら

あなたはこのメッセージを読んで、どのようなことを感じますか。

いじめている君へ

この文章を読もうとしている君は、本当の「いじめっこ」ではありません。だれかをいじめ続けても何も感じない本当の「いじめっこ」は、とても鈍感で、これを読んだり、改めていじめのことを考えたりなど、するはずがありません。

実は、いじめる側に立つ人たちのほとんどは、君のような人たちです。いじめで、友達が深く傷つくことに気が付いているけれど、鈍感なふりをして生きている人たちです。

よく自身も、中学のとき、いじめられる側にもいじめる側にもいたことがあります。だれをいじめるかをリーダー格が決め、無視をする。持ち物をかくす。やめれば、今度は自分がいじめられますから、みんなの機嫌をとって、やめようと言えませんでした。いじめられた経験があるからです。いじめられたのは個性のある人たちばかりです。静かであっても、どこか秘めたパワーを感じさせる人もいました。もし友達になれていたら、その交流を通じて、自分が知らない、別の世界にふれていただいでしょう。

今は立派な仕事をして、それぞれの分野でかがやいている人がたくさんいます。しかし、いじめられた側は、いじめた側を、よく観察していたので、大人になっても決して忘れてはいません。

いじめる側といじめられる側の真ん中辺りにいる君たちには、大きな可能性があります。もし君たちのうちの何人かが強い気持ちをもつことができれば、いじめを食い止める大きな力になれる。そうして得られた友達は、きっと君の世界をもっと大きく広げてくれるはずです。

千住明
(作曲家)

四月二十八日（くもり） ベトナムから来たリャンちゃんは、今日もさみしそうにしていた。日本語があまり話せないので声をかけてあげたくても、なかなかできない。私ももう六年生のだから、しっかりしなくてはと思う。

四月三十日（晴れ） 父が久しぶりに「明日、ホームに行く。」と言う。

父は何かうれしいこと、つらいことがあると、ホームに行く。ホームとは、神奈川県大磯町のエリザベス・サンダース・ホームのことだけど、父は二歳のとき、そこに預けられ、青年になるまでそこで育ったのだ。

父の父（私のおじいさん）は、アメリカ人で、私の知らない人だ。

父が生まれたのは戦争の後で、おじいさんは、日本に来ていたアメリカの軍人だった。父の母（私のおばあさん）は日本人で、父が持っている古ぼけた写真を見ると、若くてきれいな人だ。二人は心から愛し合っていたのに、ちがう国の人同士の結婚は、いろいろと難しかったらしく、とうとう別れることになってしまった。

それから、おばあさんは病気になって、父を育てられなくなり、父をホームに預けると、すぐになくなってしまった。だから、父のふるさとは、大磯のエリザベス・サンダース・ホームで、

父の新しい母は、このホームを作られた澤田美喜先生なのだ。

五月一日（晴れ） 私は、父と連れ立って歩くのが好き。今日もつきつきしている。

ホームに着くとすぐ澤田美喜記念館に行った。父はいつも、澤田先生の写真をじっと見つめて話しかける。父は、先生のことを今でも「ママちやま」と、呼ぶ。

澤田先生のふっくらとした顔、やさしそうなまなざしに向き合っていると、私の心まで、ぼっと明るくなる。

大きな戦争の後で日本が混乱していたとき、父のように、外国の人と結婚ができずに生まれてきて、両親とはなればなれになる子供たちがたくさんいた。

若いころ、長く海外で生活されていた澤田先生は、そんな子供たちを見ると、自分の子供のようにいとおしく思えてしかたがなかった。この子供たちの母親になってあげることが自分の使命と思い、全財産をつぎこんで、昭和二十三（一九四八）年、このホームを作られたということだ。

五月の日射しの中で、父が話しかけてきた。

「なあ、愛。お父さんはこの間、愛のクラスの授業参観に行って、リャンちゃんを見たとき、小さいころの自分に出会ったような気がしてね。」

「お父さんの小さいころ？」

「うん。お父さんも、ずいぶんといじめられたんだよ。ホームを一步出ると、目の色がちがうとか、かみの毛の色がちがうと言われてね。あるとき、ママちやまと電車に乗ったんだ。そしたら、

エリザベス・サンダース・ホーム
澤田美喜（さわだみき）が作った外国人の父親と日本人の母親を持つ子供（こども）のための施設（しせつ）。

澤田美喜

（一九〇二～一九八〇）



世界中から届(とど)くエアメールに返事を書く澤田美喜

父は言った。「ママちゃまは、お父さんたちを、みんな同じように愛してくださった。」って。それが、私の名前の秘密。

五月十二日(晴れ) 昭和五十五(一九八〇)年の今日、澤田先生がなくなられた。旅先のスペインで。そして今日、私は素直に、リヤンちゃんに声をかけた。「私のお誕生会に来てる？」って。リヤンちゃんはうれしそうだった。

ありがとう！ 澤田先生。

五月七日(雨) 今日も、リヤンちゃんに声をかけられなかった。お父さん、ごめんね。澤田先生、ごめんなさい。

五月十日(晴れ) 父のアルバムを見る。澤田先生にだかれた小さいころの父を見ていたら、なみだが出てきた。澤田先生は、三十年間に千人以上の子供たちの母親になられた。いつも、山ほどの苦勞をかかえながら。

後ろからかみの毛を引っぱられて、日本人じゃないからアメリカへ帰れって、男の人に言われた。」

今まで、一度も聞いたことのない話だった。

「そのとき、ママちゃまがね、顔を真っ赤にして、『この子たちに、どんな罪があるんです。日本人でもアメリカ人でも、どこの国の人でも、同じ人間じゃありませんか。』と、言ってくださったんだ。」

父の長いまつ毛に、光るものがあった。

「お父さんはね。社会に出てからも、苦しいときにはいつもママちゃまの言葉を思い出して、頑張ったんだ。」

思わず、父の手をにぎった。ずっとずっと父が好きになった。

大磯駅で、父が突然、私をふり返った。

「なあ、愛、愛はリヤンちゃんにやさしくしてるんだろう？」

私は、ただだまっていた。心がうずいた。



澤田美喜と子供たち

(3) 自分の役割を自覚して

考えよう 私たちの役割と責任

私たちは、学校や家族をはじめとする様々な集団の中にいる。

一人一人がその中で大切にされ、自分の良さを発揮しながら役割を果たしていくためには、どのようなすればよいのだろうか。



学校の中で



家族の中で

集団の中にはどのような役割があるのだろうか

私たちは、様々な集団で、それぞれ役割をもって活動しています。どのような役割があるのか、ふり返ってみましょう。また、その役割はなぜ必要なのでしょうか、役割の大切さについても考えてみましょう。

集団 ● 学級では
役割 ● 学級会の司会

学級会の話し合いのときには、司会をして、話し合いをまとめる。

集団 ● 家庭では
役割 ● ふろそうじ

家族が気持ち良く入浴できるように、ふろをそうじする。

例えば……

集団 ● 学校では
役割 ● 図書委員会の委員

昼休みと放課後に本の貸し出しをする。

集団 ● 地域では
役割 ● 子供会の副会長

子供会の行事が楽しくできるよう、会長と一緒に会をまとめる。

				集 団
				役 割

●あなたはどのような集団で、どのような役割を果たしていますか。



給食当番



クラブ活動



委員会活動



スポーツチーム

集団の中で自分の役割と責任を果たす

様々な集団の中にいる私。たくさんの人と関わりながら、協力して過ごす毎日。一人ではできないことも、みんなで力を合わせればできることがある。集団の目標に向かって、自分の役割と責任を果たしていくことで、楽しさや喜びを感じることもある。

集団の中での自分の役割を考えてみよう。

6年

5年

●あなたが所属する集団をより良いものにしていくために、あなたがすべきことは何でしょう。



例えば学芸会の演劇で、演じる人と同じようにかかやいているのは、舞台に向けて照明を当てるAさんであり、音楽をタイミングよく流すBさん。

だれか一人でもいなければ、この劇は成り立たない。

どのような役割でも、その役割がなければ成り立たない

効果音係 ▶



▲ 照明係



進行係 ▶



▲ 小道具係



▲ 大道具係



▲ 役者



定吉はもう、動けなかった。うすれてゆく意識の中で、江戸の町を歩き来する人々の足音だけが聞こえている。

小川 笙船
（二六七）―（二七六）

定吉には、家族はいない。一人、長屋に住み、魚売りで生計を立てていた。しかし、病をわずらい仕事ができなくなつた。家賃がはらえず、長屋を出された。ねる場所も、食べる物もなく、道にたおれた。すっかりやせ細り、よごれた身なりで苦しんでいる定吉に声をかける者はいなかった。

しばらくすると、定吉の手を取り、脈を確かめ、

「しっかりしろ。」

と声をかけた男がいた。その男は連れもの者に、定吉を背負うように言った。

定吉は、となりにねている男のうなり声や、薬をゴリゴリと調合する音で目が覚めた。（しんりょう所か……、助かったのだ……）なみだがこみ上げてくる。しかし、次の瞬間、定吉はここからこつそりとぬけ出すことを考えた。金がないのだ。だが、にげ出す力はもつとない。そこへ、さっきの男が現れた。

「気付いたか。良かった。しばらく、ここで養生して病を治すんだな。」
おだやかな声が、定吉の胸にひびく。でも定吉は、

養生
病気の手当をし、回復（かいふく）に努めること。

「ふん、おいらは病気……なんかじゃねえ。たのみもしないことを……してくれやがった。」

と、とぎれとぎれの声で、息巻いた。男は、定吉の顔をしばらく見た。

「金の心配なら、しなくていい。」

そう言って、脈をとるために、再び定吉の手を取った。ごつごつと大きな強い手が定吉の手を包むと、定吉は静かに目を閉じた。定吉の目からあふれるなみだは、ほおを伝わり、首をぬらしていた。

「ゆっくりと休むことだ。」

そう言うと、男は部屋を出て行った。

男の名は小川笙船。江戸の町でも有名なうでの良い医者だった。身分の高い者たちは、高いしんりょう代を余計に包み、もてなし、笙船を大事にしていた。そのような者たちだけをしんりょうしても十分に豊かな暮らしをしていける。それでも笙船は、貧しく医者にかかる金もない者にも手厚くしんりょうをほどこした。江戸の町には、定吉のような家も身よりも金もない病人がたくさんいたのだ。助かる者はいい。手当てをしても、死んでいく者も多く、笙船は胸を痛めていた。





そのころ江戸では、貧しい病人は、笹船のしんりよ
う所では受け入れられないほどの数になっていた。笹
船は、殿様にこの事実を伝え、ついに、殿様の命令で
貧しい者たちが安心してみてもらえる小石川養生所が
つくられた。そして、笹船はそこを取り仕切ることに
なった。養生所は何百人もの患者であふれ返った。自
分と同じ志のある若い医者や養生所に呼び寄せ、治療
の仕方を実際にやって見せて学ばせた。多くの病人の
診察や、若い医者たちへの指導で、笹船は目が回るよ
うな毎日であった。

しかし、どんなにつかれていても、夜には若い医者
に任せられた治療がまちがっていないか確認した。そして、
若い医者たちのなやみや疑問が書かれた日誌に夜おそ
くまで目を通し、一人一人に声をかけ、いたわった。
一方で医者としての姿は厳しく示したのである。

こうして、志ある医者育て、薬となる薬草を育て
ながら、定吉にしたように手厚く、貧しい病人の面倒
を見た。

はらう金もなかった定吉は、養生所の井戸から水を
くむ仕事をして、笹船への恩返しをしていた。

ある日、水をくんでいると、あの日、となりでねていた男が、自分の畑で採れたたくさん
大根を養生所に届けに来た。この男もいまだに金をはらえずにいた。

「先生、先生はおられるかあ。先生に食べてもらおうじゃー！」

男は、すっかり元気になっていた。土だらけの手で背負っていたかごを下ろし、笹船の姿を
見つけると、日に焼けた顔は満面の笑顔になった。

笹船もまた、うれしそうだった。笹船は男とかごに手を合わせた。
そして、大根のかごを受け取り高々とかけると、養生所にはみんな
の笑顔と拍手の音が広がった。

笹船のおかげでできた養生所はその役割を終え、現在は小石川植物
園となっている。植物園の中には、笹船や貧しい江戸の町人のたくさ
んの思いと共に、今も、井戸がひっそりとねむっている。



小石川植物園に残る養生所の井戸

集団における役割と責任

みんなの中で君がかがやく

君は、食事の後片付けなどの手伝いをして、家族の役に立つことをしているかな。

君は、学級の係の仕事などを進んでやったり、授業でよく友達を助けたりしているかな。

君はまた、みんなの事を思ってボランティア活動をしたことがあるかな。

さて、君がみんなのために役立とうとするには、どんなことに気を付ければ良いだろうか。四つほどの場面で考えてみよう。

第一は、グループや学級などの全体の問題を、みんなで解決していこうとするときだ。そんなとき、うまくいくと、一人ではとても思いつかぬことを考えついたりするね。「三人寄れば文殊の知恵」と言うだろう。君もこんなときは、のびのび、どしどし、考えを出そう。出しおしめはいけないよ。

第二は、グループや学級で、いろんな意見や考え方があって、討議をするときだ。そのときは、だまっているのが一番いけない。もっと良い方法がないかと真剣に考えてみよう。まず、自分の考えをしっかりとつ。そして、たとえみんなとちがっていても、ひるまずに、みんなによく

分かるように言ってみる。しかし、その一方では、他の人の考えに耳をよくかたむける。自分の考えがまちがっていると気付いたらすぐ改める。また、少数意見を大切にしながら、いろんな考えや対立する考えをまとめることはできないか、と努力してみよう。

第三は、勉強や仕事のこと、困っている友達がいるときだ。困っていた君が、友達から助けてもらったこともあるだろう。そんなときのうれしさは、忘れられないものだ。「まさかのときの友達が、本当の友達」ということわざもある。友達をライバル（競争相手）とだけ思っていたら、それは大変なまちがいなんだ。友達が困っていたら、君から声をかけるようにしよう。

第四は、みんなで仕事を分担してやるときだ。例えば、学級会や児童会やいろんな行事の委員・係、あるいは、授業での学習や作業などのグループ活動では、それぞれが仕事を分けもつて、その責任を果たしていくだろう。こんなとき君は、どんな関わり方をしてきたかな。進んでやってきたか、しりごみしてきたか。

はなやかな、楽な仕事はだれでも受けもとうとする。しかし、目立たない仕事をコツコツやる人。失敗しても、にげないで、責任を堂々ととる人。そして、受けもつた仕事を一生懸命やることに喜びを感じる人。そういう「みんなのために働く」人があって初めて、大きな仕事ができ、みんなが幸せに暮らすことができるんだ。

周りのみんなに君がどう役立って行くか。この関わり方は難しいが、それが君のこれからの一生とさえ言える。だから、このために、喜んだり、悲しんだり、苦しんだりもするだろう。しかし、覚えておいてほしい。自分の考えをしっかりとつ。みんなの中で自分を失うことなく、みんなに役立ってこそ、君は、たくましく、大きく成長するのだ、と。

(4) 公共のために役立つことを

「働く」と「つなぐ」と



てんびん棒(ぼう)をかつぎ、全国へ行商した近江商人

その昔、全国各地を旅しながら、いろいろな商いをする近江（今の滋賀県）の人たちがいました。かれらは商売を通して、自分も、相手も、その地域社会も豊かにしていったのです。その考え方は「三方良し」という言葉で伝えられています。

近江商人とは、主に鎌倉から昭和時代に活動した近江出身の商人のことです。かれらは、「売り手良し、買い手良し、世間良し」という「三方良し」の理念のもと、地域社会の発展にもこうけんしてきました。

その成功のうらには、すぐれた商才だけでなく、代々伝えられ守られてきた規律や道徳を重んじる心があったのです。



● 自分がなりたい職業を例に、「三方良し」の意味について考えてみましょう。

なりたい職業

自分も良い

相手も良い

社会も良い

5年

なりたい職業

自分も良い

相手も良い

社会も良い

6年



学校周辺のごみ拾い



町内会の清掃(せいそう)活動



海に流出した重油を取り除(のぞ)く

話し合ってみよう

自分にできるボランティア活動

● 私たちは地域や社会のために何ができるのでしょう。

できること・したこと

活動してみた感想

社会のために力をつくす

平成二十三年(二〇一一年)三月十一日、東日本大震災が発生した。この震災の被害にあった地域の復旧活動や人々の救護活動のために、地方公共団体、自衛隊、警察、消防、海上保安庁などから多数の職員や医療スタッフが派遣された。

また、世界の多くの国や地域、国際機関などから、大きな支援が寄せられた。

さらに、国内外から多くのボランティアが参加した。



困難な状況の中、活動に当たった人たちは、どのような思いで救助や救出などに力をつくしたのだろうか。それを支えていたものは何だったのだろうか。





弟が生まれてお姉ちゃんに
かわいがってくれたね。



生まれてきてくれてあり
がとう。元気に育ってね。



しっかりと勉強してね。
友達たくさんできるかな。



元氣いっぱい。
水遊びが大好きだったね。



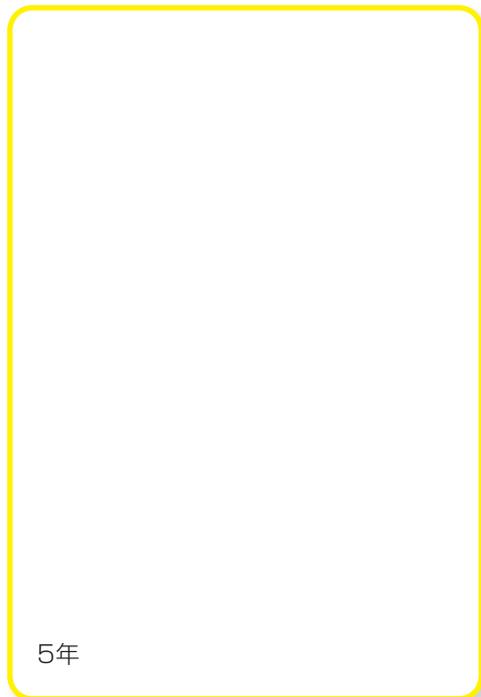
いつもお手伝いありがと
う。とても助かっているよ。



雪遊び、楽しかったね。



6年



5年

●家族っていいなと思うのはどのようなときで
しょう。



家族に見守られて成長してきた私^{わたし}

(5) 家族の幸せを求めて

どんなときも
私を信じてくれている。
どこにいても
私の心を支えてくれる。
私の家族。

大切な家族のために
私は何ができるのだろう。

人生最大の幸福は 一家の和楽である

野口英世
(医学者)

楽しみは 妻子むつまじく うちつどひ
頭ならべて 物をくふ時

橘曙覧
(歌人)

銀も 金も玉も 何せむに
まされる宝 子にしかめやも

山上憶良
(歌人)

大切な家族を思って…



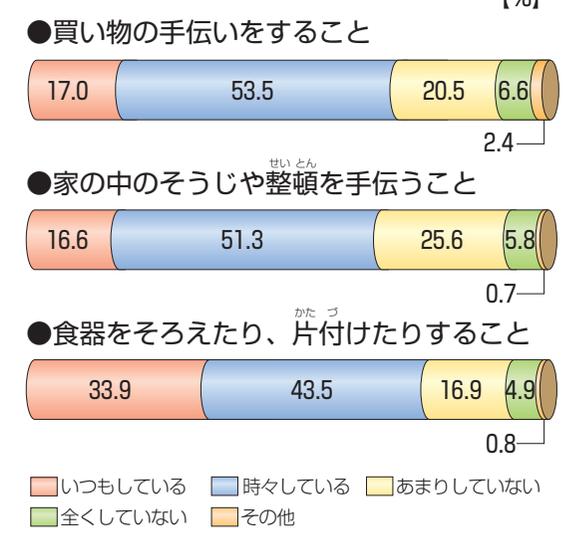
ときには
「うるさいなあ」と思うこともある家族の存在。
でも、これからも
かけがえのない自分の居場所であり続ける家庭。
大切な家族とのきずなをより強いものにし
家族みんながもっと幸せになるように
私にできることがきつとあるはず。

家事の当番はこんな
ふうにしたけれど、
みんなはどっかな。

私にだって持てるよ。

ぼくは、この前の土曜日に、家のニュースを新聞にまとめてみた。
それは、ぼくが四年生のとき、初めて「としくん家新聞」を作ったら、
それを見た父が、とび上がって「おお、これを読むとつかれが飛ぶぞ
お。」と喜んでくれたことを思い出したからだ。
父は、「このごろ仕事の帰りがおそく、よく」つかれた。」と言ってい
るけれど、今度の新聞も「本当に元氣の出る薬だなあ。」と「」
していた。
この次は、家族の声を集めて書くコーナーも作ってみたいと思う。
(児童作文)

■ あなたは家で家族の手伝いをしていますか。(小学5年生) [%]



国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成22年度実施)

私の役割

家族へのメッセージ

6年

私の役割

家族へのメッセージ

5年

● 家族の一員としての役割と家族へのメッセージを書きましょう。



楽しい遠足

クラスが一つになった運動会



おいしい給食

仲間と共に
学び合う中で
生涯の支えとなる
すばらしい
思い出をつくらう。

教え導いて
くださる先生。
支え合い、
助け合う
たくさんの
仲間たち。



本の読み聞かせ



たくさんの友達

(6) より良い校風を求めて

● 自分の学校について考えてみましょう。

この学校の自慢

この学校の好きな所

こんな学校にしたい

学校坂道
作詞 西口ゆうこ

この坂道のぼったら ぼくの学校があります
ジャングルジムにのぼれば海が
まっさおに見えます
青空に抱かれた ぼくの自慢の学校
風をきってかけます

この坂道おるのは 空が赤く燃える頃
丘を渡る澄んだ空気 うしろに長い影
ともだちの笑顔も 夕焼けに染まります
この坂道をぼくはあしたも
口笛とのぼります

この坂道をぼくはあしたも
口笛とのぼります

校風をつくるのは私たち

● あなたの学校にはどのような校風がありますか。

「仲良しN小、元気良し！」これが私たちの学校の合い言葉です。同じクラスや学年はもちろん、学校中がとても仲良しです。

それは、縦割り班などで活動することがとても多いことや、六年生が下級生の面倒を見たり教えたりする仕事がたくさんあるからだと思います。

月に一度は縦割り班で遊ぶ日があるし、学期に二回は縦割り集会で班対抗のゲームなどをしてとても盛り上がります。縦割り遊びの日でなくても、よく一緒に遊びました。

月ごとの誕生日給食はランチルームでいろいろな学年の人と一緒に楽しく会食します。

一年生に朝の準備の仕方を教えたり、朝読書の読み聞かせをしたりすることもあります。

初めは、「面倒くさいなあ」と思ったり、言うことを聞かない下級生がいるといやになったりすることもありました。でも、やっているうちに、私も昔は六年生のお世話になったことをだんだんと思い出してきました。

今では、行事のときにも大声で名前を呼んで応援してくれる下級生がとてもかわいいです。

五年生にも「仲良しN小、元気良し！」の伝統を、絶対に受けついでもらいたいと思います。

(児童作文)

話し合ってみよう

胸を張れる校風

先輩たちから伝わってきたことがある。私たちはそれを受けつぎ、もっと良いものにして後輩たちにも伝える。

● 自分の学校の「校歌」や「校章」にはどのような意味や願いがあるのかを調べてみましょう。

● 自分の学校をより良くしていくために、あなたにできること、やってみたいことを書きましょう。

5年

6年



(7) 郷土や国を愛する心を

この国を背負って立つのは私たち。私たちの住むふるさとには、伝統や文化が脈々と受けつがれている。それらを守り育てる使命が私たちにはある。

そのための力を今、私たちは養っているだろうか。

科学技術の発達、国際化、情報化、そして少子化や高齢化など、わが国の社会は急激な変化の中にある。

わが国の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土やわが国を愛する態度を養いながら、未来を切りひらく力を身に付けていこう。

● あなたのふるさをしようか
うかいしましょう。



織物(おりもの)



● 各地で受けつがれる伝統工芸。地域の特徴と日本らしさが、長い歴史をこえて、今に伝えられている。

歌舞伎(かぶき)



芸能

焼物



こけし

工芸



切子(きりこ)



人形浄瑠璃(じょうるり)

● 長い歴史の中で生まれ育まれてきた多くの伝統工芸がある。



能



端午(たんご)の節句

もちつき



季節の行事

語りつぎ受けつぐ日本らしさ

暮らしの風情



夏の風物詩

茶と和菓子(わがし)



● 日本人は、季節感や四季折々の行事を大切に暮らしてきた。



東京スカイツリー

● 法隆寺の五重塔のような、地震力を吸収させる「柔構造」の理論が生かされている。



世界最古の木造建築「法隆寺(ほうりゅうじ)」

● 木造の建物は自然との調和がはかられている。

建築

● 日本には日本の歴史の中で生まれ育まれてきた音楽がある。



祭りなどで演奏(えんそう)される「おはやし」

音楽



毛筆によって書けの美しさをきわめる「書道」



心身をきたえ人間形成を目指す「武道(ぶどう)」



おもてなしの心を追究する「茶道(さどう)」



花器の中に自然美を表す「華道(かどう)」

道

●わざをみがくと共に礼儀作法を重んじ、「道」を追究していく。



小型固体(こたい)ロケット「イブシロン」



藤子・F・不二雄「ドラえもん」



スーパーコンピュータ「京(けい)」

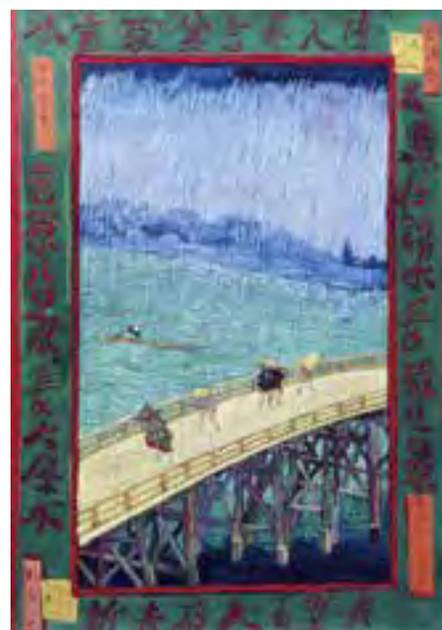
伝統の中にある「創造」の力

技術

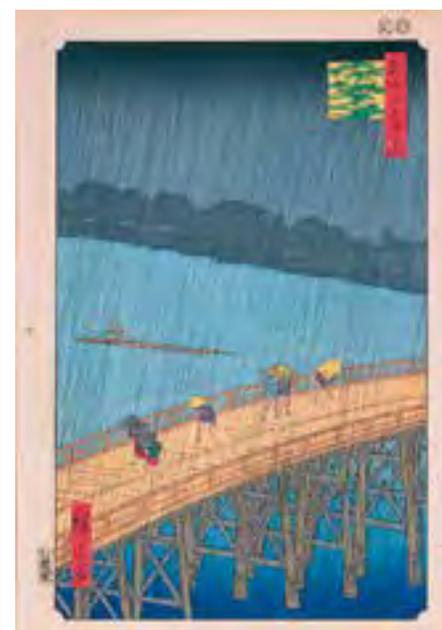
●宇宙開発、次世代コンピュータ開発、アニメ制作など、日本の高度な技術は世界にほこれるものがたくさんある。

浮世絵

●浮世絵は、西洋絵画にも大きな影響をあたえた。左はオランダの画家ゴッホによる歌川広重の模写。



ゴッホ 日本趣味(しゅみ)「雨の大橋」



歌川広重 名所江戸百景「大はしあたけの夕立」

受けつがれている日本の伝統や文化に心動かされるとき、私たちはそれらをつくり、受けついできた昔の人々や地域の人々と心で対話をしている。
受けつがれているわが国の伝統や文化に学びながら、未来へ向けて豊かな心を育んでいきたい。そしてそれらを受けつぎ、さらに発展させていくための力を身に付けていきたい。

●興味をもった伝統や文化について調べてみましょう。

「いつてきまあす。はあ……。」
 と言って玄関げんかんを出たものの、やる気がわからない。かついでいる防具ぼうぐは本当に重たい。

ぼくが剣道を始めてもう三年になる。もともと、体をきたえるという目的で親にすすめられた剣道だが、友達のさそいで試合の前に見た「日本剣道形にほんけんどうがた」が剣道を始めるきっかけになった。本物の刀を使って行われる形は本当にかっこよかった。その立ち姿すがた、剣の動きなどはとても美しく、自分もやってみたいとあこがれをいだいた。でも、そんな思いもふき飛ぶほど日々の稽古けいこは大変だった。

日本剣道形
 大会などにおいて、開会式の最後に行われる、試合の前の儀式(ぎしき)の一つ。刃やいば(は)を切れない状態(じょうたい)にしてある刀を用いて行われる。

最初は竹刀しんたいすら持たせてもらえなかった。正座せいざの仕方、立ち方、礼の仕方など、いろいろなきまりをたたきこまれた。

やっとな竹刀を持たせてもらえても、防具を着けるまでには一年もかかった。足の使い方、素振りすぶりなど、同じ動作のくり返しばかり……。

特に礼の仕方については厳きびしく指導しどされた。道場に入る前の礼、出て行くときの礼、正面に向かっている礼、相手と稽古けいこを始めるときの礼など。こしを曲げる角度や目線も決まっています、厳きびしく教えられた。(何でこんなに礼にこだわるんだろう。)

こんな疑問ぎもんをいだきながら稽古にはげんだ。

そんなつらかった剣道だが、いよいよ初めての試合の日が来た。これだけいやなことでも頑張がんばってやってきたのだから、勝てるだろう。そう考えていた。

試合が始まり、相手の連続打ちに圧倒あつぱされ、あつという間に一本取られた。(まずい。このままでは負けてしまう。)

気ばかりがあせり、相手の迫力せきりきに負け、ぼくが後ろに下がった瞬間しゆんかん、ぼくは相手の竹刀を頭で受けていた。

「面あり。勝負あり。」
 相手の面が決まり、審判しんぱんに宣告せんこくされる。負けてしまった。ふてくされた態度たいどで引き上げを終えると、すぐに先生がぼくの方に近づいてきた。(なぐさめなんか、いらない。)

そう思っていたぼくに、先生は全く予想してない言葉をかけた。

「あのような見苦しい引き上げをする人間に、剣道をやる資格しきかくはない。他の試合をよく見てみなさい。」

意味はよく分からなかったが、しかられたことは確かだ。先生は一体何をおこっているのだろう。

しばらくは試合なんて見る気になれなかったが、午後の大人の試合を見ると、動きがぼくたちと全くちがって、素早すばやく、見ていてとても美しい。

引き上げ
 剣道の試合において、競技(きぎ)の最後(さいご)に(きょうご)終(しゆう)り(しゅうり)の後(のち)、おたがいに竹刀(たけやいば)を納(おさ)め、五歩下(ごふくだ)がって礼(れい)をする礼儀作法(れいぎさく)のこと。

(大人の試合はすごいな。)

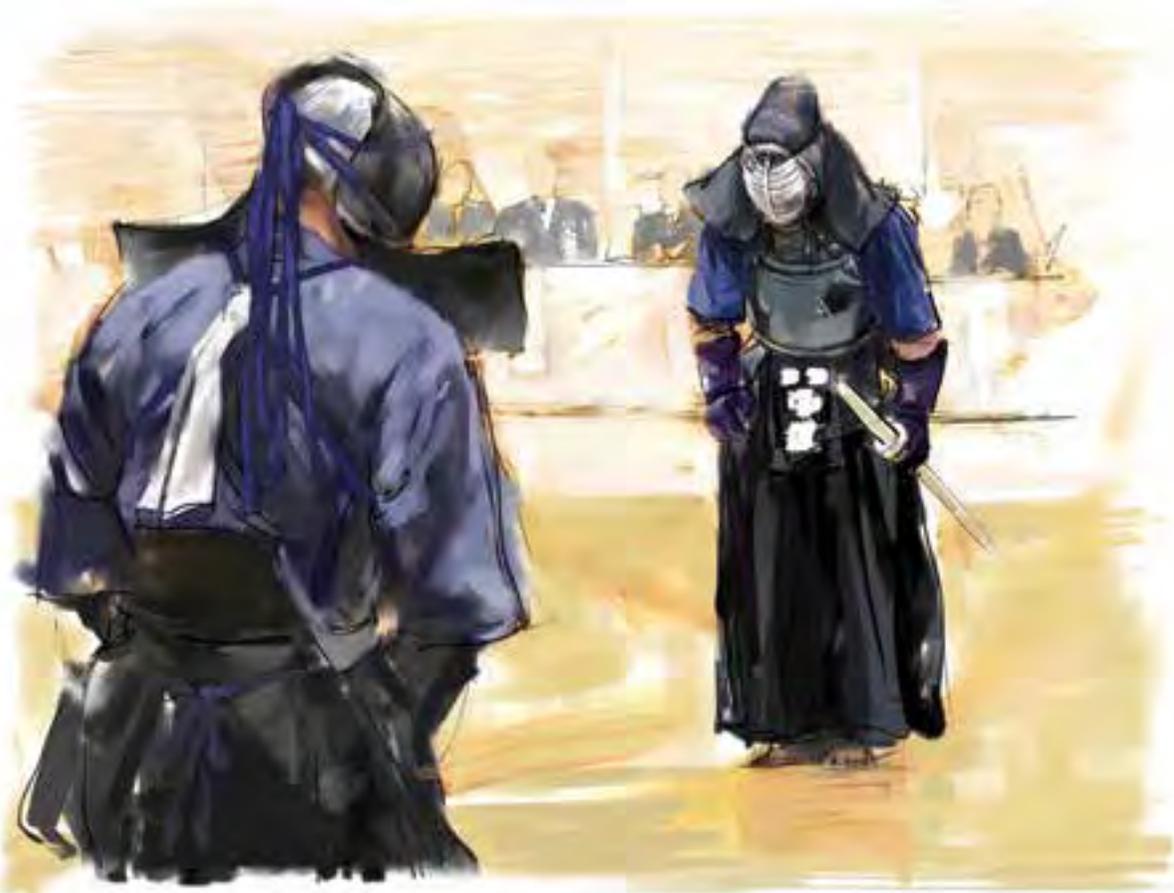
心からそう思ったが、もう一つすごいと思ったことがあった。それは、試合に負けた方の引き上げだ。礼をする二人は息が合っていて、見ていても美しい。

絶対に、負けてくやしはずなのにどうして立派な態度で引き上げができるんだらう。

数日後、先生がこんな話をしてくれた。

「剣道は、『礼に始まり礼に終わる』と言われるように、礼というものをとても大切にします。自分がどのような状況でも、相手を敬い、尊重するという心の表れです。これは、日本人が昔から大切にしてきた相手を思いやる精神です。このように、一つ一つの動きには意味があり、我々が受けついでいかなければならないことです。」

「剣道の稽古をする目的は、人間性をみがいくことです。つまり、剣道は、人間をつくる道なのです。」



「人間をつくる道……か。」

ぼくはこの前の試合のときの引き上げを思い出した。日本人が大切にしてきたことを受けついでいるとしたら……。

「行ってきます。」

歯切れのよい、元気な声であいさつをして今日は稽古に向かう。いつもとても重かった防具が、心なしか軽く感じられる。

国家・社会の一員として

米百俵

明治維新の戦いで、幕府方に加わった長岡藩（今の新潟県長岡市を中心とする地域）は、官軍と戦って敗れました。藩のろく高は、減らされ、藩士たちは、売りはらうものもつきると、ついにその日の食べ物にも困るほどになりました。

明治三（一八七〇）年の春のことです。長岡藩と親類付き合いをしていた三根山藩（今の新潟県新潟市の一部の地域）から、長岡藩に、米百俵が送られてきました。藩士たちは、おどろき上がって喜び、その米が分配されるのを今か今かと待ちわびました。

ところが、藩の大参事、小林虎三郎が、この米をみんなに分配せずにお金にかえて、そのお金で学校を建てると言い始めたのです。これを聞いた藩士たちは、死ぬか生きるかのこのときに、学校なんか建てて何になるのかといきどおり、連れ立って、虎三郎の家へおしかけました。

なぜ、その米を分けられないのかと詰め寄る藩士たちを前にして、虎三郎は、言いました。

「わが藩の人数は、家族をふくめると、八千五百人に上る。これだけの人数に百俵の米を分けても、せいぜい二日分にしかならない。今、おたがいに考えなければならぬことは、この長岡藩を立ち直らせるには、どうすればよいかということだ。私たちがこんなに苦しいのは、戦いに敗れたからだと君たちは思っているかもしれないが、本当の原因はもっと深いところ

にある。それは、わが藩に人物がとぼしかったということだ。ものの分かる人物がもつたら、こんなひどい目にあわずに済んだのだ。この長岡藩が栄えるのもおとろえるのも、この日本をおこすのもほろぼすのも、ことごとく人にある。一日も早く、人物を養成することに力を注がねばならない。だから、わしは、何をおいても学校を建てて、人物を養成しようと思うのだ。」

「大参事のお考えはもつともですが、うえ死にしては元も子もない。藩士たちや家族がどんなに困っているのかお分かりでない。」

「分かっている。わしも困っている一人だ。しかし、学校を建て、人物を養成すれば、百俵の米は、やがて一万俵になるか、百万俵になるか計り知れないのだ。」

その真剣な表情から、ゆるぎない固い決意を感じた藩士たちは、虎三郎の言葉をついに受け入れました。

「大参事が、それほどまでに考えておるとも知らず、無礼を働きましたこと、申し訳ありません。」
「わしの考えが分かってもらえるならこんなうれいことはない。おたがい齒を食いしばって生きぬいて、この長岡をよみがえらせようではないか、立派な日本を打ち立てようではないか。」

まもなく長岡の町に、学校が建てられました。また、このことがきっかけとなって、長岡は教育のさかんな町となりました。そして、この町からは、すぐれた人材が数多く世の中に送り出されたのです。

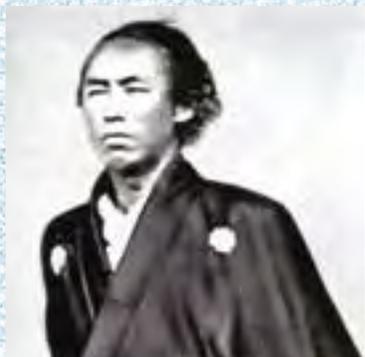
*官軍 朝廷側の軍勢。

*ろく高 武士が仕えている將軍や大名からあたえられる米などの量。

*大参事 役職の名前。

(8) 世界の人々をつなげて

地球という一つの星に暮らす七十億以上の人々。
たくさんの方々の言葉、多様な生活様式、
そして様々な考え方。
私もこの星に生まれたその中の一人。
日本人としての自覚をもって
私にできることは何だろう。
私がやらなければならないことは何だろう。



龍馬は考えていた

世界に目を向けにやいかんぜよ

日本がまだ世界の中で孤立していた幕末、坂本龍馬は、「このままではいけない」という思いを強くもち、広く世界へ目を向けようとした。かれのえがいた新しい日本への思いとその構想は、志半ばでたおれた後に、実際の新しい国づくりに役立つことになる。そこには、日本も世界の二員として力強く発展してほしいという熱い思いがあった。

新渡戸は言った

私は太平洋のかけ橋になりたい

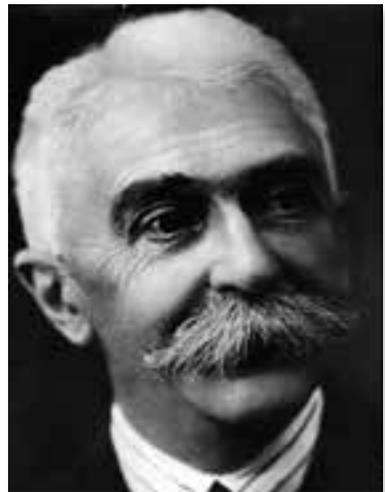
大正から昭和の初期、世界各国の関係が不安定な時代、新渡戸稲造は世界を回り、日本という国を理解してもらうためにうったえ続けた。

国際連盟(国際連合の前身)の仕事を通して世界の平和につくし、「太平洋のかけ橋」だけでなく「世界のかけ橋」となった。





オリンピックの開会式



ピエール・ド・クーベルタン
(一八六三〜一九三七)

世界を結んだオリンピック

フランスの教育者であったピエール・ド・クーベルタンは、スポーツを通して世界の国々が結び付きを深めていくことができるよう、古代ギリシャで行われていたオリンピックを復活させようとした。クーベルタンの熱心な働きかけによって、一八九六年、ギリシャのアテネで記念すべき第一回オリンピック競技大会が開催されることとなったのです。

大会のシンボルである五輪マークもクーベルタンが考えたもので、世界五大大陸の団結を表しています。クーベルタンが唱えたオリンピック精神とは、スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々なちがいを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現にこつけんすることです。

この理想は、今も変わらず受けつがれ、クーベルタンは「近代オリンピックの父」と呼ばれています。

一盃に平和へのいのりを

千 玄室

みなさんは、二十世紀後半に、果たして日本の姿はどうなっているだろうか、と想像したことがありますか。

何年かかろうと、日本のみなさんに強く願うことは、温かい人間関係が息づく社会（世の中）を作る努力をおしまないということだと思います。

自分が少しでも人より優位に立ち、一番を目指すような社会ではなく、これからは一人一人の人間が「ONLY ONE」(かけがえない自分)として、みんなの中で生かされる世の中こそが実現されなければならないと思います。

戦争が人間社会にもたらす計り知れない不幸を地上から永遠に除去するためにも、一盃に平和へのいのりを深くこめて、平和へのちかいを新たにすることが私の使命です。

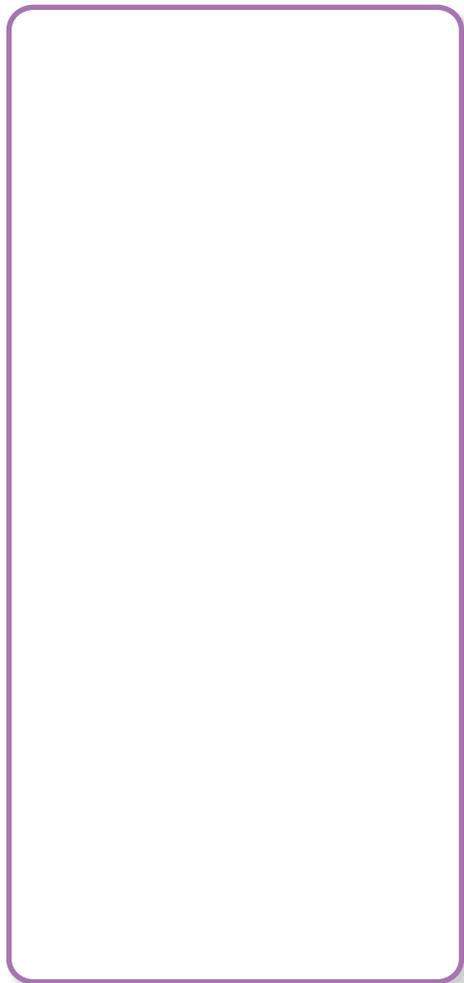
私も自分の職業を通じ、一盃のお茶によって世界中の方々に少しでも幸せになっていただけるよう努力しています。



千 玄室

大正十二(一九二三年)、京都府生まれ。裏千家前家元十五代。「一盃からピースフルネス」の理念を提唱し、世界六十数か国を歴訪。茶道文化の浸透・発展と世界平和の実現に向けた活動を展開している。ユネスコ親善大使。

●世界の人々と交流するためにどのようなことができると思いますか。



ペルーは泣いている

(サンバにルンバ、躍動するリズム、ほとばしる情熱と明るさ。私には、南アメリカ大陸の風が合っている。)

母校のバレーボールチームを学生日本一にした加藤明(アキラ)は、大きな夢をいだいて、ペルー女子バレーボールチームのかんどくになりました。

ペルーチームの選手は、十八人。各地から有望な選手が集まってきました。「練習は土曜、日曜をのぞく毎日、夕方から五時間とする。」

アキラは、選手に言いわたしました。一日に一時間程度の練習しかしていなかった選手たちは、口々に不満を言いました。

夜の練習で家族との時間をもてなくなった選手の中には、家族を練習場に連れてくるものもいました。強いボールを受ける厳しい練習を見た父親が、

「うちのむすめは、もっとやさしくされる権利がある。この国ではそうだ。お前の国とはちがうんだ。」

と、怒鳴るように言って、選手を連れて帰ってしまうこともありました。

毎晩、ランニングやレシーブなどの厳しい練習がくり返され、何人かの選手はたえられなくなってやめていきました。新聞にも〈日本人かんどくが栄光の選手たちをやめさせた〉などと書かれました。

そんなアキラを支えたのは、選手たちの明るさでした。ペルーのむすめたちの吸いこまれるような笑顔に接すると、

(とにかくペルーの選手たちと一緒にあせを流そう。そして、いつかは世界のひのき舞台でペルーの人たちと一緒に喜び合おう。)

と、心にちかうのでした。

アキラは、ペルーの選手たちの素直さや快活さを、もっと練習の中に取り入れられないかと考えました。そのためには、いつも選手たちの父親のようであればいけないと思いました。

練習が終わると、選手たちと日本やペルーの料理を食べに行きました。選手たちは、アキラの教えた「上を向いて歩こう」や「さくら さくら」などの日本の歌や、ペルーの歌を、アキラと一緒に歌いました。そんなとき、選手たちは、アキラと家族のように結び付いていることを、感じるのです。

アキラは、明るくて純粋なペルーの人たちに、ますますひかれていきました。そして、選手たちからペルーの歴史や文化、習慣などを教えてもらい、自分がだんだんとペルーの人になっていくように感じました。

練習場では、キャプテンがペルーの言葉で、「オーレ」(頑張ろう)と声をかけると、他の選手たちが日本語で、「ハイ」と答えて、ボールを追いかけます。練習場からは、強いボールの音と、温かいかけ声がひびいてきました。もうやめていく選手は、一人もいませんでした。



加藤明
(一九三〇—一九八二)



世界女子バレーボール選手権大会で日本と戦うペルーチーム

昭和四十二（一九六七）年に、東京で世界女子バレーボール選手権大会が開かれました。ペルーは、南米代表として初めての「大舞台」。しかもアキラの祖国での試合でした。

しかし、結果は、おしくも四位に終わってしまいました。表彰式では一位から三位までのチームには金、銀、銅のメダルがおくられました。ペルーチームには何もありません。ただ、拍手がおくられるばかりでした。式が終わって、観客が立とうとしたとき、場内に思いがけない歌声が起きました。

アキラの教えた「上を向いて歩こう」を、ペルーの選手たちが、あざやかな日本語で歌っていました。くやしけれど、泣くまいとこらえ、アキラに向かって一生懸命に歌っているようでした。一位になった日本の選手たちがかけ寄ってきて、自分の首から金メダルを外すと、それをペルーの選手の首にかけてあげました。会場から、割れるような拍手が起きました。ペルーの選手は、笑いとなみだでくしゃくしゃになった顔で日本の選手とだき合いました。

アキラの目からも、なみだがあふれそうでした。選手

たちはこのとき、アキラを本当の父親のように感じたのでした。

選手たちは、この時のくやしさをばねに祖国ペルーに帰って猛練習にはげみました。そして、その年の四月にブラジルで開かれた南米選手権では、強敵ブラジルをも下し、南米一位の座を獲得したのです。

《ペルーは泣いている》

昭和五十七（一九八二）年三月、ペルーの新聞は、早すぎた加藤明の死を報じました。

そうぎは、バレーボール練習場で行われました。女子の選手たちのかたにかつがれたそのひつぎは、数千人のペルーの人々に見送られました。骨は、二つの箱に納められました。一つは故国日本に、もう一つは第二の故国ペルーにうめるために。

それから九年たった平成三（一九九一）年、ペルーのアテ市に、アキラの名前を付けた小・中学校 AKIRA KATO が建てられました。アキラのまいた国際親善の種は、今もしっかりとペルーの地に根づいているのです。

情報社会に生きる私たち

コンピュータや携帯電話などの情報機器は、便利なものですが、使い方によっては、危険やトラブルを招くこともあります。また、直接会って伝えないと気持ちが伝わらないこともあります。情報機器は、使い方をよく考えて使うことが大切です。

パソコン

キーワードを入れると、授業で出てきた人物や歴史のことを調べることができます。



携帯電話・スマートフォン

遠くにいる友達とも、電話やメールでやりとりできます。



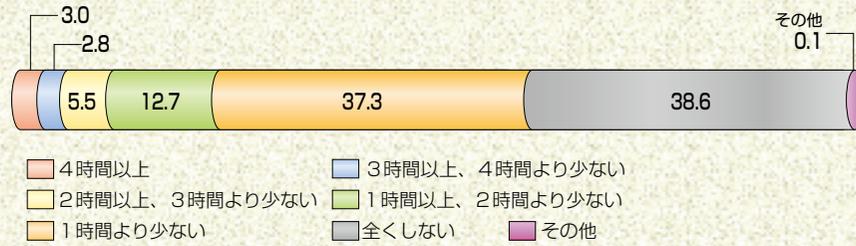
ゲーム機・タブレットなど

オンラインで、他の人と一緒に遊べたり、電子教材を使えたりします。

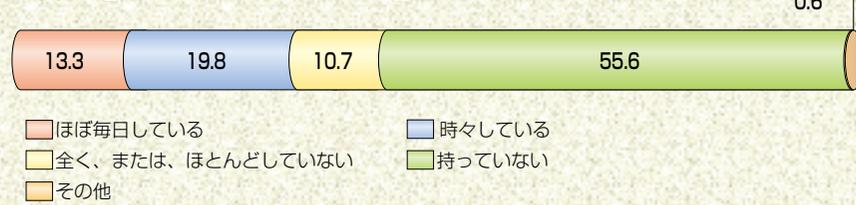


■ 小学6年生に聞きました。 【%】

● 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話やスマートフォンを使う場合も含む)をしますか。



● 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか。



● 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームも含む)をしますか。



文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査(小学校)」

● データを見て思ったことや、携帯電話などの情報機器の使い方について考えたことを書きましよう。

話し合ってみよう

インターネットをどのように使えばよいのだろう

●オンラインゲームなどのやり過ぎ

ここまでクリアしたい。もうちょっと……。

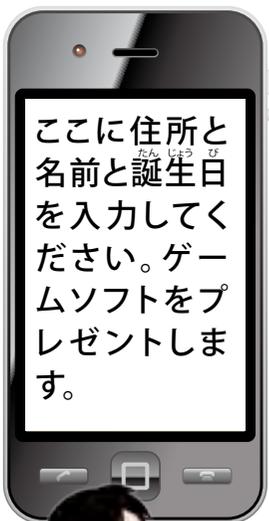


節度をもって

節度を考え、生活のリズムをくずさないようにしましょう。

●個人情報のあつかい

プレゼントがもらえるなら、入力してみようかな。

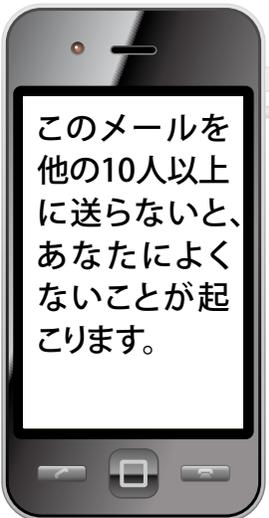


自分でよく考えて

個人情報が勝手に利用され、トラブルに巻き込まれることもあります。よく確かめずに、個人情報を入力しないようにしましょう。

●ネット上でのいやがらせ・チェーンメール

だれが書いたか分からないうから、悪口を書いてしまえ。



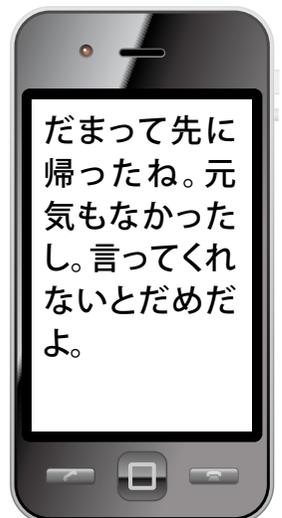
メールを送るべからだからいいか。他の人に送信だ。

相手の気持ちを考えて

相手の気持ちを考えましょう。相手を傷つけることはしてはいけません。

●言葉の使い方・情報機器の使い分け

送信



おっつてるのかな。

どうしたのかな。心配だな。

真心が伝わるように

言葉がどのように受け止められるかを考えましょう。直接会って伝えないと気持ちが伝わらないこともあります。

インターネットを使うとき、他に気を付けたいことを話し合ってみましょう。

自分を見つめ

豊かに生きる

みなさん、これから自分だけで考えてください。人の言うことだけを丸覚えしては駄目ですよ。学校で教わることのおくに何か大事なことがあるのではないか、という疑問をもつことが必要です。

若い人にとって一番大事なことは「好奇心をもつ」ことです。次に、一つのこと「熱中する」。そして「やり続ける」。この三つがあれば、だれでもどんな仕事でも成功できます。

尾本恵市
(人類学者)

これからみなさんにも、本当に自分のしたいことが何なのか、自分は何に向いているのか、なやみ、考えるときがくると思いますが。早いうちにそれを見つける人もいます。私のように大人になってから見つかる人もあります。その時期は、人によってちがいますが、一つ言えるのは、常に真面目に、努力を積み重ねていかなければ、決して「自分の道」は見つからないということです。

どんな世界でも活躍している人たちはみんな努力家だということ、みなさんも知っているでしょう。どんな分野に進んでも、努力をすれば、必ず報われるときがくるのです。

三枝成彰
(作曲家)

● 人や社会、自然などとの関わりの中で、あなたはどのような自分を目指しますか。

なりたい自分の姿(何をしたいか)

今の自分を見つめてみると(自分を知る)

なりたい自分に向かうには(みがき高める)

あなたにとって「豊かに生きる」とは(例＝夢に向かって努力するなど)

生きる喜びを感じて

弱さ、苦しさを乗りこえた先に

人間は決して完全な生き物ではない。

だれもが弱さを持ち、なやみ、苦しみ、
悲しみをかかえながら生きている。

私たちは、心の声に耳をかたむけると、
自分の弱さやみにくさが見えてしまうことがある。

けれど、それも私。かけがえのない私。

弱さ、みにくさをおそれることなく、向き合い、
さらに立ち向かうことによって見えてくるものは
ないだろうか。



こんな思い みんなあるんだよ

何でこんなことも
できないんだろう。

はずかしい思いは
したくないなあ。

自分って
だめだなあ。

友達がほめられると、
なんだかくやしいなあ。

●自分の心の声を聞いてみよう。



生き方を学ぼう

私たちの強さは弱さから生まれる。

ラルフ・ワルド・エマーソン
(アメリカの思想家・哲学者)

なみだと共にパンを食べた者でなければ、
人生の本当の味は分からない。

ゲーテ
(ドイツの詩人)

生きる上で最も偉大な栄光は、決して転ば
ないことにあるのではない。転ぶたびに起
き上がり続けることにある。

ネルソン・マンデラ
(南アフリカ共和国の政治家)

●自分の弱さと真正面から向き合うとは
どのようなことだろう。

●人生の先輩の生き方から、生きる強さ、喜びを学ぼう。ほりり高い生き方をした先人について、本やインター
ネットなどで調べてみよう。また、身近な人から、生き方について直接聞いて学んでみよう。

人物名

どのように生きてきたか

自分の生き方につなげたこと

5年

人物名

どのように生きてきたか

自分の生き方につなげたこと

6年

平成二十五（二〇一三）年九月七日。アルゼンチンのブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会総会で、二〇二〇年オリンピック・パラリンピックを東京に招致するための最終プレゼンテーションが行われた。日本代表団のトップバッターとしてステージに立ったのは、日本で初めて義足を着けて、パラリンピックに出場した女子陸上選手、佐藤真海であった。

（足が痛いな）と思うようになったのは、平成十三（二〇〇一）年の秋ごろであった。最初は（ねんざかな）と思う程度のわずかな痛みであったが、痛みは次第に増していき、十二月には、まともに歩けるような状態ではなくなっていた。

病院での診断は骨肉腫。治療がうまくいっても右足のひざから下は残せないという。当時、大学のチアリーダーとして活躍していた真海にとって、足を失うことは、生きがいを失うことでもあった。

骨肉腫
骨にできる悪性腫瘍（あくせいしゅよう）。がん。

病院で過ごした初めての夜は、十二月二十四日のクリスマスイブだった。窓の外のはなやかな様子とは対照的に自分は一人ベッドの上にいる。おし寄せてくる不安やさびしさと必死にたたかっていた。闘病生活は決して楽なものではなかった。あまり泣いたり弱音をはいたりする

こともなく、「良い子」とか「強い子」とよく言われていた真海であったが、病院ではとても「良い子」ではいられなかった。「つらい」「苦しい」「もういや」……。何度も弱音をはいた。手術は無事に成功したが、真海は右足のひざから下を失った。

翌年の十月、真海は、退院して大学生活にもどった。笑顔にむかえられて感激を味わった大学復帰であったが、その喜びも長くは続かなかった。友人たちは明るく楽しそうにサークル活動をしたり、就職の話をしたりしていた。大学は、若さとエネルギーが満ちあふれている場所。多くの人が自分の明るい未来を信じている。

それに引きかえ自分はどうかだろうか。以前のようにとんだりねたりすることはできない。自分にどんな夢や希望があるのか。周囲の友人たちの元気な姿を見れば見るほど気持ちがいっぱい。気が付くと、友人たちと会うのをさげ、必要な授業にだけ出席するとそそくさと家に帰る。そんな毎日になった。



いつしか、家から出てもうううつになり、だからといって家にいても何をする気力も起こらなかつた。もう生きていく意味を感じられないと、いつも家で泣いてばかりいた。希望をもてないまま、毎日が過ぎていった。

しかし、(このままでいいのか。自分は今までスポーツでも勉強でも、いつも目標をもって頑張ってきた。それが自分らしさだったはず。このままではダメになる、何とかしなければ……。)という気持ちも芽生えるようになっていた。

真海の新たなチャレンジが始まった。

最初に挑戦したのは水泳だった。おそろおそろ水に入り、思い切っかべをけると、手足が水の中で自然と動いた。バランスは悪かったが自分の体が泳ぎを覚えていた。真海は久しぶりに笑顔を取りもどした。

その後、真海は、義肢装具士の白井さんにさそわれ、義足の人たちのためのスポーツクラブの練習を見に行った。真海も走ってみるようすすめられて走ってみた。ほかの人にとっては、歩いているようにしか見えなかつたかもしれない。しかし、真海は体に風を感じ、走ることに楽しさを思い出した。

平成十五(二〇〇三)年四月、真海は、百メートル走と走りはばとびの練習を始めた。スポーツ義足は、鉄製で普通の義足よりばねが強いため、強い筋肉がないと使いこなせない。走るの

に必要な筋肉が付いたところに、白井さんが、スポーツ義足を作ってくれることになった。真海は、まずは、普通の義足で練習を始めた。走れば足が痛むし、何度も転んだ。走りはばとびは、着地のしゅうげきが足に伝わり、その痛みは大変なものだった。でも、そんなことではめげなかつた。両足で走れることが何よりうれしかったし、練習を重ねるうちに、痛みが少ないとび方を体が覚えていった。

六月になって、真海のスポーツ義足は完成し、七月にスポーツ義足を着けて、関東身体障害者陸上競技選手権大会へ出場した。走りはばとびの結果は三メートル二十一センチメートル。なんと大会新記録だった。

大会に出るにつれ、記録は少しずつのび、次第に真海の夢は、ふくらんでいった。(いつか日本記録をねらいたい。パラリンピックにも出てみたい。)

真海はさらに練習に打ちこんだ。その様子を見たコーチが三月に行われるパラリンピックの最終選考会への出場をすすめてくれた。

パラリンピックに出場するためには、最終選考会で参加標準記録を上回らなければならない。このとき真海の記録は三メートル二十センチメートル台。参加標準記録は三メートル五十五センチメートルだった。

ずっと先の夢と考えていたパラリンピック。でも、少しでも可能性があるのなら挑戦したいと考え、真海は大会への出場を決めた。

コーチとの本格的な練習が始まった。コーチは、とぶのに必要な筋肉を付けるために、ひたすら走ることを命じた。スポーツ義足は、足の裏の部分がせまいので、バランスを取りにくい。

義肢装具士
義手(ぎしゆ)や義足などを
作ったり、取り付けたり
する仕事をする人。



Photo:Shugo TAKEMI

しっかりと体重を乗せないとふらふらして速く走ることができない。また、義足を着けている足には、歩いているときの三倍以上のしゅうげきがかかる。だから走りこむと痛みも出てくる。それでも真海は走り続けた。走りが安定して、とぶ練習を始めたのは、選考会のわずか一か月前であった。

(本当に間に合うのだろうか。)

真海は不安をいだきながらも練習を重ね、最終選考会に臨んだ。記録は三メートル六十六センチメートル。何度も記録を確認した。自分でも信じられなかった。参加標準記録を上回り、出場権を手にしたのだ。義足でスポーツを始めて一年後のことだった。

平成十六(二〇〇四)年九月、真海はついにアテネパラリンピックのスタジアムに立った。スタジアムの歓声や雰囲気圧倒されたが、日本代表として戦うことができると思うと体がふるえた。

結果は、三メートル九十五センチメートル。決勝進出にはあと三センチメートル足りなかったが、自己新記録だった。スタジアムの上に広がる青空を見上げ、真海はすがすがしい気持ちでいっぱいだった。

(また、あの舞台に立ちたい。今度は、海外の選手と互角に戦いたい。) 真海はその強い思いで挑戦を重ね、北京、ロンドンのパラリンピックに三大会連続で出場し、自己記録も五メートル二センチメートルまでのばすことができた。

「限界のふたを外す。」

真海はその言葉を大事にしなが、今も次の大会に向け記録に挑戦している。

オリンピック・パラリンピック招致のための最終プレゼンテーション。真海は笑顔でこう話し始めた。

「私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。スポーツは私に人生で大切な価値を教えてくださいました。それは、二〇二〇年東京大会が世界に広めようと決意している価値です。……十九歳のときに私の人生は一変しました。私は、陸上選手で水泳もしていました。

また、チアリーダーでもありました。そして、初めて足首に痛みを感じてから、たった数週間うちに骨肉腫により足を失ってしまいました。もちろん、それは過剰なこと、絶望のふちにしずみました。でも、それは大学にもどり、陸上に取り組むまでのことでした。私は目標を決め、それをこえることに喜びを感じ、新しい自信が生まれました。そして、何より私にとって大切なのは、私がついてくるものであって、私が失ったものではないということ学びました。……。」

ちがうから仲良くしよう

目の色が違っても、髪の色が違っても、みんな仲よくしよう、などとよく言われますけれども、私はそうではなくて、目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、仲よくしようというんです。

これは、詩人のまどみちおさんが、同じく詩人の阪田寛夫さんとの話の中で言った言葉です。

まどさんは、童謡「ぞうさん」の作詞者。この歌には、「鼻が長い」とからかわれても、「お母さんだってそうよ」「お母さん大好き」と言える子ゾウを「素晴らしい」と応援する優しい思いがこめられています。

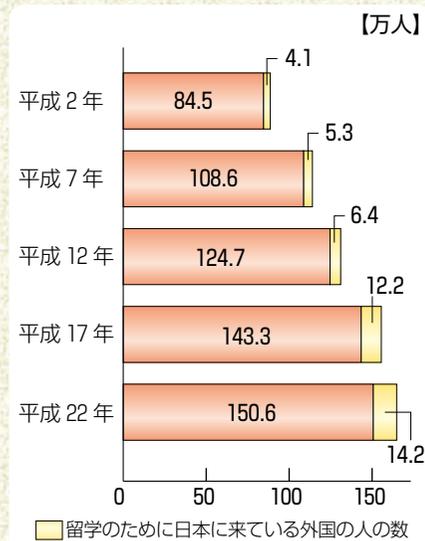
まどさんは、なぜ、「違うから仲よくしよう」と言ったのでしょうか。「違っても仲よくしよう」と「違うから仲よくしよう」はどちらがうのでしょうか。

地球が小さくなった

私たちの身の回りには、世界中の「もの」があふれています。遠い国で起こった出来事も、すぐにニュースになって届きます。

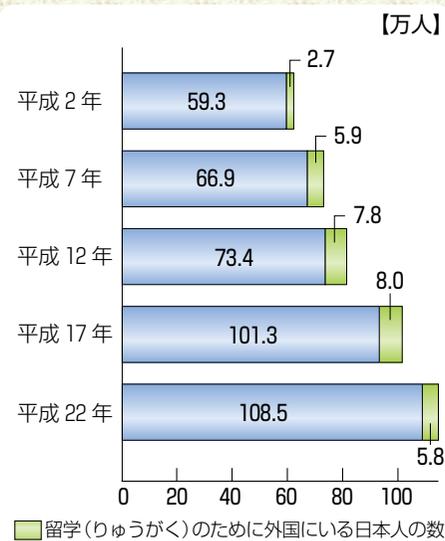
世界の様々な文化の人々と直接つながる機会も増えています。私たちの身近な地域社会で働く人。日本語を学びたいと日本を訪れる人。外国で勉強したり、働いたりする日本人も増えています。今、世界の中に、様々な文化の人々が共に生きる社会が生まれているのです。

■ 日本で暮らす外国の人の数



総務省「平成22年度 国勢(こくせい) 調査結果」/日本学生支援機構(しえんきこう)「平成26年度 外国人留学生在籍状況(ざいせきじょうきょう) 調査結果」をもとに作成

■ 外国で暮らす日本人の数



外務省「平成27年 海外在留邦人(ざいりゅうほうじん) 数 調査統計(とうけい)」/文部科学省「日本人の海外留学状況」をもとに作成



外国で働く日本人



日本で働く外国の人



調べてみよう

書類が日本語のものしかなくて、わからない...



乗りかえの案内が難しくて...



英語わからないので、うめんなさい。



日本語で話しかけてみるのよ...

● 外国の人は、日本で生活していく上で、どんなことに困っているのだろう。A.L.Tの先生に聞いてみると、自分で調べてみたりしよう。

話し合ってみよう



● いろいろな国や文化で育った人たちが、共に生きていく社会をつくるために、何が必要だろう。私たちにできることは何だろう。

答えは一つじゃないよ

道徳で考える問題は、答えが一つではないよ。
自分では、「これでいい」って思っているけども
友達のことを聞くと、そんな見方もあったんだと気づく。
友達のことが、もっとよくわかったって思えることもある。

だから――。

なぜ、どうして、と立ち止まって考えたり、別の見方を探してみたり、
自分とちがう立場の人の気持ちや考えを想像したりしてみよう。
いろいろな考えを出し合って話し合おう。

答えを出すことよりも、もっと大事なことに出会えるかも。
みんなで道徳について話し合うとき、大切にしたいこと。
それは、一人一人が、安心して自由に自分の考えを出し合えるようにすること。
でも、それって、簡単なことじゃない。
「友達と話してよかった」と思える話し合いを創ろう。



話し合いのとき、こんなことはないかな？

- 間違ったことを言ってしまったらはずかしいな。
- 自分一人でたくさん話してしまうかも。
- みんなとちがう意見だから、言いづらいな。
- 自分の意見に反対されるといやな気持ちになるし……。
- 相手を言い負かそうとして、強い口調になってしまう。
- もし友達と意見がちがったら、仲が悪くなってしまうかも。
- 自分の意見を変えるのは、負けたみたいでいやだなあ。
- 答えが決まらないなら、話し合っても意味がない気がする。



話し合いの仕方を考えてみよう。

- 道徳の問題を話し合うときの約束を決めてみよう。
- 自分のめあてを考えてみよう。

そんなとき、どうしたらよいだろう？

● みんなとちがう意見や疑問を、積極的に出していったらどうかな？

● 自分とちがう考えの良いところを探してみよう。



話し合いをふり返ってみよう。

- 自分の思っていることが伝えられたかな。
- ほかの人の意見を聞いて、「いいな」と思ったことがあったかな。
- ほかの人の意見がちがったとき、どうしたかな。
- 話し合いで解決しなかったことや、疑問に思ったことを書き留めておこう。

道徳の時間に学習したこと

学年 月 日

家の人からの言葉

学年 月 日

家の人からの言葉

学年 月 日

家の人からの言葉

学年 月 日

家の人からの言葉

道徳の時間に感じたことや考えたことを書き留めておこう。家の人からも言葉をもらおう。

ページ	タイトル等	原作者等	出典・引用等
22	ヘレンと共にーアニー・サリバンー	井美博子	『小学校 読み物資料とその利用「主として自分自身に関すること」』文部省
26	夢に向かって確かな一歩を		義田貴士「遥かなる頂を目指して」(『感動ストーリーズ 終わりなき夢』学習研究社)より一部引用
34	うばわれた自由	江橋照雄	『小学校 読み物資料とその利用「主として自分自身に関すること」』文部省
46	天からの手紙	林 和子	『小学校 読み物資料とその利用「主として自分自身に関すること」』文部省
50	葉っぱのフレディ	レオ・バスカーリア作 みらいな訳	『葉っぱのフレディーいのちの旅ー』童話屋／The Fall of Freddie the Leaf by Leo Buscaglia Copyright © 1982 by SLACK, Inc. All right reserved. Extracted by the permission of SLACK, Inc. c/o Nancy Stauffer Associates through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo
62	行為の意味	宮澤章二	『行為の意味ー青春前期のきみたちに』こま書房新社
66	最後のおくり物	武田正樹	『小学校 読み物資料とその利用「主として他の人とのかわりに関すること」』文部省
70	めぐりあい	相田みつを	『本気』文化出版局
84	ブランコ乗りとピエロ	永井 裕	『小学校 読み物資料とその利用「主として他の人とのかわりに関すること」』文部省
89	松下幸之助の言葉	松下幸之助	『人生心得帖』PHP 研究所
92	黄熱病とのたたかい	竹内善一	『小学校 読み物資料とその利用「主として他の人とのかわりに関すること」』文部省
108	命でんご	加藤諒太	国立教育政策研究所監修『震災からの教育復興 岩手県宮古市の記録』悠光堂
135	いじめている君へ	千住 明	朝日新聞社編『いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ』朝日新聞出版
136	愛の日記	上條さなえ	『小学校 読み物資料とその利用「主として集団や社会とのかわりに関すること」』文部省
150	みんなの中で君がかがやく	片岡徳雄	『小学校 読み物資料とその利用「主として集団や社会とのかわりに関すること」』文部省
174	米百俵		山本有三「米百俵」(『小学国語 6 の 2』日本書籍)をもとに編集
178	一盞に平和へのいのりを	千 玄室	『「京の子ども 明日へのとびら」中学校編』京都府教育委員会
180	ペルーは泣いている	大野 真	『小学校 読み物資料とその利用「主として集団や社会とのかわりに関すること」』文部省
188	自分を見つめ豊かに生きる	尾本恵市	編著者 河合隼雄・梅原猛『小学生に授業』朝日新聞出版
188	自分を見つめ豊かに生きる	三枝成彰	『「心ときめく」兵庫県道徳副読本 小学校5・6年』兵庫県教育委員会
194	真海のチャレンジー佐藤真海ー		佐藤真海『夢を跳ぶ パラリンピック・アスリートの挑戦』岩波書店／佐藤真海『とび! 夢に向かってーロンドンパラリンピック陸上日本代表・佐藤真海物語ー』学研教育出版をもとに編集
200	まどみちおさんの言葉	阪田寛夫	『まどさんのうた』童話屋

道は続く

小学校での六年間
 たくさんの友達
 たくさんの思い出
 たくさんのお礼
 たくさんのお礼
 生きていく上で
 大切なことが分かってきた六年間
 そして
 これからも道は続く
 新たな道で
 新たな自分をみがいしていこう



わたしたちの 道徳 小学校5・6年

発行 文部科学省
 〒100-8959
 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

表紙 小河原政男
 草至社

デザイン 草至社

イラスト アートボックス、小田啓介、川野郁代、河野やし、関口喜美、たかぎまさゆき、立岡正聡、タムラフキコ、塚越文雄、中江潤一、藤田ひおこ、堀じゅん子、水上みのり、山田奈穂

写真 アフロ、アマナイメーجز、アールクリエイション、イメージナビ、奥村正、影山光洋、近現代 PL、慶応義塾福澤研究センター、田中真知郎、トヨタ自動車、東京大学大学院理学系研究科・理学部、東宝、日刊スポーツ、日本俳優協会、藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK、毎日新聞社、毎日新聞社MOTT AINAIキャンペーン事務局、読売新聞社、ロイター、Alamy、AP、interfoto、PIXTA、Science Photo Library、Shugo TAKEMI

ポスター等 岡山県立図書館、国土交通省、埼玉県、滋賀県米原市、広島県交通対策協議会・広島県自転車安全教育推進委員会

保護者の方へ

- この本は、子供たちが人として心豊かに生きていくことができるようになることを願って、作成したものです。
- 学校では、道徳の時間やその他の学習活動を通じて活用します。
- 御家庭でも、この本を開いて、一緒に考えたり話し合ったりして、子供たちの豊かな心の成長に役立ててくださいますようお願いいたします。

日本音楽著作権協会(出)許諾第1315950-504号